Ⅰ　五類定点把握感染症（性感染症を除く）

１．2021 年の総括

2021（令和 3）年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。2021 年は、小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患の総計は、例年並みの報告数に近い傾向に戻った。新型コロナウイルス感染症に伴う非医療的（行政）介入　緊急事態宣言が 3 回、発出されたにも関わらず、2021 年は、2020 年と異なり、報告数が例年並みに戻りつつある。この理由は、（1）2020 年と異なって、小中学校・義務教育学校・高校の休校措置がなかったこと、（2）感受性個体の増加に伴う RS ウイルス感染症が増加したこと、（3）奇数年、隔年、流行する手足口病の報告数が増加したこと、（4）感染性胃腸炎が、2016/2017 年の流行シーズン以来の報告数の増加が認められたこと、以上が考えられる。

全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、の順であった。大阪府では、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎の順であり、全国の発生動向や傾向と、ほぼ同じであった。

大阪府の発生動向について、2020 年と比較すると、インフルエンザの年平均の週間報告数が 2.70 から 0.02 へ、昨年より、99.8%の減少が見られた。RS ウイルス感染症の年平均の週間報告数が 0.11 から 1.58 へ、昨年より、14.2 倍の増加が見られた。手足口病の年平均の週間報告数が 0.06 から 0.77 へ、昨年より、12.6 倍の増加が見られた。手足口病は、奇数年に隔年流行するため、前年比について、考慮する必要がある。感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が 2.28 から 3.66 へ、昨年より、57.7%の増加が見られた。

（文責：本村）

表　定点あたり週間報告数の年平均値

全　国			大　阪　府		
順位	感染症	定点あたり報告数	順位	感染症	定点あたり報告数
1	感染性胃腸炎	3.11	1	感染性胃腸炎	3.66
2	RSウイルス感染症	1.38	2	RSウイルス感染症	1.58
3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.57	3	手足口病	0.77
4	手足口病	0.47	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.48
5	突発性発しん	0.37	5	突発性発しん	0.32
6	ヘルパンギーナ	0.23	6	ヘルパンギーナ	0.25
7	咽頭結膜熱	0.21	7	咽頭結膜熱	0.22
8	流行性角結膜炎	0.19	8	流行性角結膜炎	0.10

1）2021 年に注目された感染症

[新型コロナウイルス感染症]

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、新しいコロナウイルス（SARS-CoV-2）による感染症で、2019 年 12 月に中国湖北省武漢市で確認された後、2020 年初頭に世界へと感染が拡大した。日本国内では、2020 年 1 月に最初の感染者が確認され、その後、全国で春に第 1 波、夏に第 2 波、2020 年末から 2021 年にかけて第 3 波が確認された。さらに、2021 年は春に第 4 波、夏に第 5 波が確認され、波を重ねるごとに陽性者数は増加した。SARS-CoV-2 は、ゲノムサイズが約 30kb の 1 本鎖 RNA ウイルスで、エンベロープを持ち、その表面にはスパイクタンパク質，メンブレンタンパク質、そしてエンベロープタンパク質が存在する。スパイクタンパク質は、ワクチンの抗原領域であり、宿主の細胞上にある受容体と結合するために必要な受容体結合領域（Receptor Binding Domain; RBD）を持つ。このスパイクタンパク質のアミノ酸が変異することにより、ウイルスの感染性や抗原性に影響を及ぼすことが明らかとなっている。

第 3 波は、大阪府では 2020 年 10 月末から陽性者数が増加し、2021 年 1 月初旬にピークを迎えた（図 1）。流行の中心となったウイルスは、スパイクタンパク質に D614G 変異を持つウイルス株（B.1.1.214）であった。D614G 変異は、当初の中国株には認められず、2020 年に欧州から広がった株で認められた特徴で、この変異によりウイルスの感染性が増加することが報告されている。

第 4 波において流行の中心となったウイルス株は、英国で最初に報告され、2020 年 12 月 18 日に WHO により、懸念される変異株(Variants of Concern; VOC)に分類されたアルファ株（B.1.1.7）であった。大阪健康安全基盤研究所に搬入された検体からは、2021 年の 1 月初旬に初めてアルファ株が確認されている。大阪府では 3 月下旬から陽性者数が増加し、4 月には検出されるウイルスのほとんどがアルファ株となった。第 4 波の陽性者数のピークは 4 月末であった（図 1）。アルファ株はスパイクタンパク質 RBD に N501Y 変異を持ち、感染性が増加することが報告されている（表 1）。

第 5 波において流行の中心となったウイルス株は、インドで最初に報告され、2021 年 5 月 11 日に VOC に WHO により分類されたデルタ株（B.1.617.2）であった。大阪健康安全基盤研究所において、デルタ株は 4 月末に 1 例目が検出されている。大阪府では、7 月初旬から陽性者数が増加し、8 月中旬には検出されるウイルスのほとんどがデルタ株に入れ替わり、8 月末から 9 月上旬にかけてピークを迎えた（図 1）。デルタ株は、スパイクタンパク質 RBD に N501Y 変異は持たないが、L452R 変異と T478K 変異を持つ（表 1）。これらの変異によりウイルスの感染性が増加し、抗原性が変化しているため、ワクチン接種により誘導される中和抗体との反応性が低下

することが明らかとなっている。

さらに WHO は、2021 年 11 月 26 日に、新たな変異株であるオミクロン株（B.1.1.529）を VOC に分類した。大阪健康安全基盤研究所では 12 月中旬に最初のオミクロン株が検出され、年末にかけて検出数が増加している。オミクロン株 BA.1 系統はスパイクタンパク質 RBD 領域に 15 か所の変異を持ち、L452R 変異は持たないが N501Y 変異を持つ（表 1）。これらの変異により感染性が増加し、抗原性も大きく変異していることから、ワクチン接種による中和抗体との反応性がデルタ株以上に低下することが明らかとなっている。　（文責：廣井）

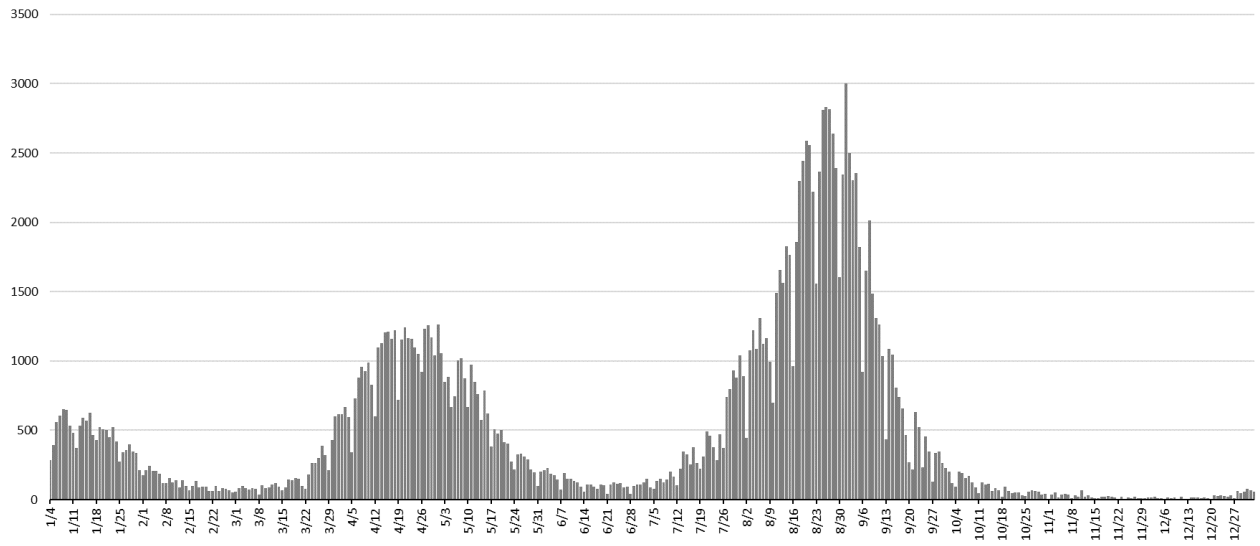


図 1. 大阪府における新型コロナウイルス陽性者数の推移（2021 年 1 月 4 日～2022 年 1 月 2）

表 1. 代表的な新型コロナウイルス変異株の特徴

変異株名	スパイク蛋白 RBD 領域 アミノ酸変異	特徴
アルファ株 （B.1.1.7）	N501Y	感染性増加
デルタ株 （B.1.1.617.2）	L452R、T478K	感染性増加、抗原性変化
オミクロン株 （BA.1） （B.1.1.529）	G339D、S371L、S373P、S375F、K417N、N440K、G446S、S477N、T478K、E484A、Q493R、G496S、Q498R、N501Y、Y505H	感染性増加、抗原性変化

参考文献

1. Lippi G, Mattiuzzi C, Henry BM. (2022). Updated picture of SARS-CoV-2 variants and mutations. *Diagnosis*, 9, 11-17.
2. Prü BM. (2022). Variants of SARS CoV-2: mutations, transmissibility, virulence, drug resistance, and antibody/vaccine sensitivity. *Frontiers in bioscience (Landmark edition)*, 27, 065

２）感染症別・週別患者報告状況

「2021 年（令和 3）年の総括」で記した疾患について、定点あたり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した（表 1）。2021 年は、2020 年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行に伴う、新しい生活様式への変化（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）、および、非医療的（行政）介入による緊急事態宣言の発出が 3 回、あったが、小中学校・義務教育学校・高校の休校措置はなかった。

インフルエンザは、2020 年と比較して、激減しており、2021 年では、上位 5 疾患に入っていなかった。感染性胃腸炎は、毎年 12 月に最高値に到達するが、2021 年も、例年通り、12 月第 3 週に最高値 12.48 を示している。RS ウイルス感染症は、2021 年　年初、九州各地で、RS ウイルス感染症　報告数の増加が報告され、大阪でも、少しずつ増加傾向にあった。大阪では、2015 年以前まで、12 月ごろに最高値に到達していたが、2016 年以降は 9 月ごろに最高値に到達するようになり、時期が早まった。この理由は、まだ、科学的に証明はされていない。2021 年は、過去の流行パターンと異なり、更に、時期が早まり、5 月第 4 週に、最高値 5.05 を示した。手足口病は、奇数年に隔年で流行するが、2021 年も、報告数の増加が認められた。流行パターンについて、大阪では 6－7 月に最高値を迎えるが、2021 年は、11 月第 1 週に、最高値 4.27 を示した。同じエンテロウイルス感染症であるヘルパンギーナについても、手足口病と、ほぼ同時期、10 月第 4 週に、最高値 1.24 を示した。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年、二峰性の流行パターンを示すが、新型コロナウイルス感染症が流行した 2020 年以降、低水準で推移し、2021 年は 4 月第 3 週に最高値に達した。RS ウイルス感染症、手足口病は、過去の流行パターンと異なる時期に、最高値に達している。特に、RS ウイルス感染症については、米国や英国でも、過去の流行パターンと異なる時期に、多く報告数が認められていた。2020 年は、新型コロナウイルス感染症流行に伴う新しい生活様式への変化、小中学校・義務教育学校・高校の休校措置により、RS ウイルス感染症の報告数は過去最低で推移しており、そのため、感受性個体群が増加し、流行拡大に至ったと考えられる。

2020 年と 2021 年における感染症発生動向の増減を比較すると、特に、減少率で一番大きかったのは、インフルエンザで前年比 99.8%減、次いで、マイコプラズマで 94.6%、伝染性紅斑で 85.3%と続く（表 2）。近年、マイコプラズマ肺炎は、2020 年は報告数の増加を認めたが、2021

表１．定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2021 年）

大阪府				
	疾患	定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	感染性胃腸炎	51 週（12 月第 3 週）	12.48	20
2	RS ウイルス感染症	21 週（5 月第 4 週）	5.05	―
3	手足口病	44 週（11 月第 1 週）	4.27	5
4	ヘルパンギーナ	43 週（10 月第 4 週）	1.24	6
5	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16 週（4 月第 3 週）	0.78	8

年は大幅に減少した。インフルエンザに関して、低水準で推移しており、感受性個体群が増加していることが推測され、今後、行動緩和、規制緩和が進むと、大流行する可能性があることが予想される。（文責：本村）

表２．2021 年と 2020 年における感染症発生動向比較

インフルエンザ定点疾患	2021 年	2020 年
インフルエンザ　↓	94	42,963

小児科定点疾患	2021 年	2020 年
RS ウイルス感染症　↑	16,058	1,129
咽頭結膜熱　↑	2,237	2,049
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　↓	4,855	9,386
感染性胃腸炎　↑	37,353	23,692
水痘　↓	960	1,776
手足口病　↑	7,851	622
伝染性紅斑　↓	111	754
突発性発しん　↓	3,307	3,809
ヘルパンギーナ　↑	2,517	1,554
流行性耳下腺炎　↓	479	558
合計	75,728	45,329

眼科定点疾患	2021 年	2020 年
急性出血性結膜炎　↑	15	11
流行性角結膜炎　↓	282	359
合計	297	370

基幹定点疾患	2021 年	2020 年
細菌性髄膜炎	10	10
無菌性髄膜炎　↑	16	15
マイコプラズマ肺炎　↓	5	93
クラミジア肺炎（オウム病を除く）↓	0	1
感染性胃腸炎（ロタウイルス）　↓	5	6
合計	36	125

3）感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を 11 ブロック（① 豊能、② 三島、③ 北河内、④ 中河内、⑤ 南河内、⑥ 堺市、⑦ 泉州、⑧ 大阪市北部、⑨ 大阪市西部、⑩ 大阪市東部、⑪ 大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、1 年間でより流行が認められた地域を定点あたりの年平均報告数を表に要約した。年平均の定点あたり報告数から地域ブロックを評価した場合、北河内（手足口病、水痘）、中河内（A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎）、大阪市北部（RS ウイルス感染症、ヘルパンギーナ）で、首位を占めていた（表）。一方、豊能ブロックは 5 疾患（RS ウイルス感染症、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱）で、最下位であった。　（文責：本村）

表．感染症別・ブロック別患者報告状況

感染性胃腸炎		RS ウイルス感染症		手足口病		A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
豊　能	2.62	豊　能	0.93	豊　能	0.35	豊　能	0.09
三　島	3.40	三　島	1.01	三　島	0.53	三　島	0.30
北河内	4.09	北河内	2.00	北河内	1.18	北河内	0.56
中河内	4.42	中河内	1.23	中河内	0.91	中河内	1.15
南河内	5.42	南河内	2.77	南河内	1.10	南河内	0.52
堺　市	2.95	堺　市	0.97	堺　市	0.67	堺　市	0.25
泉　州	3.77	泉　州	1.40	泉　州	0.68	泉　州	0.59
大阪市北部	3.82	大阪市北部	3.01	大阪市北部	1.07	大阪市北部	0.31
大阪市西部	3.30	大阪市西部	1.95	大阪市西部	0.44	大阪市西部	0.31
大阪市東部	1.76	大阪市東部	1.22	大阪市東部	0.56	大阪市東部	0.19
大阪市南部	4.34	大阪市南部	1.46	大阪市南部	0.75	大阪市南部	0.76
府内　平均	3.66	府内　平均	1.58	府内　平均	0.77	府内　平均	0.48

ヘルパンギーナ		咽頭結膜熱		流行性角結膜炎		水痘	
豊　能	0.10	豊　能	0.10	豊　能	0.09	豊　能	0.08
三　島	0.15	三　島	0.14	三　島	0.08	三　島	0.08
北河内	0.25	北河内	0.22	北河内	0.14	北河内	0.13
中河内	0.31	中河内	0.28	中河内	0.15	中河内	0.11
南河内	0.29	南河内	0.30	南河内	0.08	南河内	0.08
堺　市	0.23	堺　市	0.13	堺　市	0.08	堺　市	0.07
泉　州	0.31	泉　州	0.35	泉　州	0.10	泉　州	0.12
大阪市北部	0.57	大阪市北部	0.29	大阪市北部	0.10	大阪市北部	0.10
大阪市西部	0.22	大阪市西部	0.20	大阪市西部	0.08	大阪市西部	0.09
大阪市東部	0.15	大阪市東部	0.22	大阪市東部	0.15	大阪市東部	0.07
大阪市南部	0.17	大阪市南部	0.22	大阪市南部	0.05	大阪市南部	0.08
府内　平均	0.25	府内　平均	0.22	府内　平均	0.10	府内　平均	0.09

（黄色は最高ブロックと定点あたり報告数、網掛けは最低ブロックと定点あたり報告数）

４）感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は 1 歳台、次いで 20 歳以上、4 歳台、と続く。1 歳台の報告数の多い疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。20 歳以上の報告数の多い疾患は、インフルエンザ、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎である。4 歳台の報告数の多い疾患は、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎であった。

2021 年は、例年に比べ、RS ウイルス感染症の報告数は増加しており、例年であれば 1 歳未満が多い傾向にあるが、1 歳台の報告数が多かった。

（文責：本村）

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20 歳以上
ＲＳウイルス感染症	1 歳台
咽頭結膜熱	1 歳台
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4 歳台
感染性胃腸炎	1 歳台
水痘	10～14 歳台
手足口病	1 歳台
伝染性紅斑	1 歳台
突発性発しん	1 歳台
ヘルパンギーナ	1 歳台
流行性耳下腺炎	4 歳台
急性出血性結膜炎	20 歳以上
流行性角結膜炎	20 歳以上

2021 年　感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月				2月				3月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	68	56	58	58	91	48	39	46	26	45	24	26	24
RSウイルス感染症	258	324	652	750	784	854	1,049	1,298	1,397	1,859	1,836	2,184	2,352
咽頭結膜熱	835	497	733	686	754	638	627	508	531	475	486	504	524
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1,677	1,789	2,240	2,360	2,503	2,304	2,305	2,117	2,426	2,496	2,352	2,166	1,787
感染性胃腸炎	6,971	7,955	9,213	8,974	8,959	8,326	8,827	8,030	9,259	9,224	8,273	8,115	7,368
水痘	591	375	347	375	392	364	338	314	378	310	380	387	372
手足口病	164	133	163	141	119	108	87	81	72	61	45	61	47
伝染性紅斑	41	37	44	48	52	43	56	42	56	54	43	48	49
突発性発しん	1,121	1,163	1,167	1,239	1,168	1,123	1,110	1,067	1,108	1,140	1,029	1,155	1,205
ヘルパンギーナ	69	64	91	104	84	79	75	72	98	105	115	72	76
流行性耳下腺炎	103	114	135	130	131	112	108	76	113	112	112	104	86
急性出血性結膜炎	3	2	3	1	4	4	2	2	2	1	2	1	
流行性角結膜炎	159	146	120	128	113	98	135	114	106	121	105	104	95
細菌性髄膜炎	9	3	8	3	9	5	8	8	3	10	3	4	8
無菌性髄膜炎	9	6	8	6	13	9	12	8	9	5	11	10	11
マイコプラズマ肺炎	24	23	19	19	17	11	12	13	19	26	17	9	14
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）			1	1						1		1	3
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4	1	3	2			5	3	3	4	1	1	3

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	2	1	2	5	2		3	5	4		1	3	5
RSウイルス感染症	15,967	18,939	14,706	12,736	11,497	7,634	6,286	6,572	5,930	4,661	3,543	2,408	1,716
咽頭結膜熱	1,030	936	624	675	622	390	481	441	404	355	347	283	305
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1,928	1,825	1,359	1,406	1,508	937	1,044	1,233	1,244	1,237	1,348	957	1,200
感染性胃腸炎	9,593	9,166	6,558	7,648	7,354	4,565	6,070	6,528	6,903	7,063	7,149	5,913	6,434
水痘	277	308	211	312	289	206	264	247	267	222	267	255	275
手足口病	498	545	471	579	696	617	913	1,520	1,841	2,119	2,546	3,149	3,628
伝染性紅斑	39	24	43	38	21	16	24	30	31	28	26	31	29
突発性発しん	1,324	1,297	1,080	1,171	1,070	723	987	1,048	1,092	1,115	1,188	997	1,020
ヘルパンギーナ	675	942	939	896	1,091	615	785	1,384	1,489	1,640	1,666	1,340	1,665
流行性耳下腺炎	245	246	213	227	216	160	199	158	179	174	173	139	138
急性出血性結膜炎	4	7	5	4	4	2	6	3	4	4	1	2	7
流行性角結膜炎	144	141	104	154	145	96	169	157	167	166	154	129	139
細菌性髄膜炎	12	5	11	11	5	7	4	8	6	9	7	6	7
無菌性髄膜炎	13	13	7	4	3	8	9	5	7	10	9	9	12
マイコプラズマ肺炎	11	7	13	11	13	14	17	13	20	8	12	5	11
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）		1	1					1					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	1	3			1					2		1

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
18	12	17	14	6	9	8	4	6	4	3	3	8
2,583	3,602	4,422	3,868	2,756	3,174	5,786	7,885	8,078	8,276	9,680	12,248	13,070
489	438	632	764	493	1,005	927	1,189	1,255	1,257	1,368	1,221	1,138
1,736	2,154	2,441	2,328	1,216	2,041	1,993	2,032	2,005	1,949	1,866	1,841	1,868
8,067	10,188	12,476	12,358	6,883	12,344	11,988	11,822	11,209	10,401	10,199	9,818	9,938
366	340	326	352	293	403	365	405	376	386	341	303	316
55	68	76	84	64	151	247	228	240	344	384	363	403
65	66	63	73	59	62	58	60	57	61	43	35	46
1,238	1,290	1,524	1,490	1,019	1,342	1,413	1,409	1,428	1,393	1,370	1,352	1,326
72	80	117	122	66	153	233	300	288	359	348	460	501
124	136	121	126	108	157	171	180	183	161	201	167	197
1	4	2	2	2	2	4	2	1		2	3	3
137	115	118	113	102	142	145	159	132	141	141	133	138
8	9	7	6	6	4	8	13	8	5	7	10	6
10	10	7	9	3	8	15	11	6	7	9	10	11
8	12	15	15	16	21	16	12	22	13	22	8	21
1		1		1			2			1		
	3		2	2	2	3	2	1	2	2	2	1

10月				11月					12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
8	10	15	20	23	26	20	25	25	25	28	49	37	1,065
1,512	1,367	1,149	951	795	798	798	790	785	945	1,159	1,289	1,002	226,960
262	303	285	325	367	463	560	642	714	801	897	1,001	591	34,078
1,403	1,514	1,534	1,894	1,621	1,704	1,803	1,591	1,917	2,163	2,334	2,227	1,150	94,073
6,777	7,234	7,052	8,161	8,417	10,181	12,107	12,824	16,603	21,018	23,517	24,668	13,070	509,758
247	275	235	250	325	406	379	445	513	452	561	501	298	17,782
4,833	5,381	5,119	4,831	4,815	4,439	5,366	4,455	3,866	3,590	3,170	2,741	1,447	77,164
27	27	39	48	33	39	34	36	45	36	38	44	22	2,209
1,089	1,195	1,162	1,074	1,165	1,144	1,105	1,084	988	1,033	1,051	1,009	572	60,172
1,931	2,225	2,233	1,924	1,625	1,493	1,490	1,250	1,176	909	854	664	313	37,417
142	150	122	121	115	122	107	98	92	91	90	89	50	7,324
4	1	3	4		3	4	6	1		2	3	2	141
150	150	148	131	143	130	135	121	145	119	130	136	71	6,834
12	2	6	4	7	9	3	5	6	10	11	10	9	370
8	8	11	8	14	9	11	15	9	7	11	2	4	459
7	5	10	8	8	3	6	8	10	7	8	5	2	666
1	1				1		1	1			2		23
	1	1	1		2	4	1	2	6	6	1	4	91

2021 年　感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月				2月				3月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		0.01	
RSウイルス感染症	0.08	0.10	0.21	0.24	0.25	0.27	0.33	0.41	0.44	0.59	0.58	0.69	0.74
咽頭結膜熱	0.27	0.16	0.23	0.22	0.24	0.20	0.20	0.16	0.17	0.15	0.15	0.16	0.17
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.53	0.57	0.71	0.75	0.79	0.73	0.73	0.67	0.77	0.79	0.74	0.69	0.57
感染性胃腸炎	2.22	2.52	2.92	2.84	2.84	2.64	2.80	2.54	2.93	2.92	2.62	2.57	2.33
水痘	0.19	0.12	0.11	0.12	0.12	0.12	0.11	0.10	0.12	0.10	0.12	0.12	0.12
手足口病	0.05	0.04	0.05	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02
突発性発しん	0.36	0.37	0.37	0.39	0.37	0.36	0.35	0.34	0.35	0.36	0.33	0.37	0.38
ヘルパンギーナ	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.02	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03
急性出血性結膜炎					0.01	0.01							
流行性角結膜炎	0.23	0.21	0.17	0.18	0.16	0.14	0.19	0.16	0.15	0.17	0.15	0.15	0.14
細菌性髄膜炎	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02
無菌性髄膜炎	0.02	0.01	0.02	0.01	0.03	0.02	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02
マイコプラズマ肺炎	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.02	0.03
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）													0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.01		0.01				0.01	0.01	0.01	0.01			0.01

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ													
RSウイルス感染症	5.05	5.99	4.64	4.03	3.68	2.48	2.01	2.09	1.88	1.48	1.13	0.76	0.54
咽頭結膜熱	0.33	0.30	0.20	0.21	0.20	0.13	0.15	0.14	0.13	0.11	0.11	0.09	0.10
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.61	0.58	0.43	0.45	0.48	0.30	0.33	0.39	0.39	0.39	0.43	0.30	0.38
感染性胃腸炎	3.04	2.90	2.07	2.42	2.36	1.48	1.94	2.07	2.19	2.24	2.27	1.87	2.03
水痘	0.09	0.10	0.07	0.10	0.09	0.07	0.08	0.08	0.08	0.07	0.08	0.08	0.09
手足口病	0.16	0.17	0.15	0.18	0.22	0.20	0.29	0.48	0.58	0.67	0.81	1.00	1.15
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
突発性発しん	0.42	0.41	0.34	0.37	0.34	0.24	0.31	0.33	0.35	0.35	0.38	0.32	0.32
ヘルパンギーナ	0.21	0.30	0.30	0.28	0.35	0.20	0.25	0.44	0.47	0.52	0.53	0.42	0.53
流行性耳下腺炎	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.05	0.06	0.05	0.06	0.06	0.05	0.04	0.04
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		0.01		0.01	0.01			0.01
流行性角結膜炎	0.21	0.20	0.15	0.22	0.21	0.14	0.24	0.23	0.24	0.24	0.22	0.19	0.20
細菌性髄膜炎	0.03	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.03	0.03	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.02	0.01	0.03	0.02	0.03	0.03	0.04	0.03	0.04	0.02	0.03	0.01	0.02
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）													
感染性胃腸炎(ロタウイルス)			0.01										

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
0.82	1.14	1.40	1.24	0.87	1.01	1.83	2.50	2.56	2.62	3.06	3.88	4.13
0.15	0.14	0.20	0.24	0.16	0.32	0.29	0.38	0.40	0.40	0.43	0.39	0.36
0.55	0.68	0.77	0.74	0.39	0.65	0.63	0.65	0.64	0.62	0.59	0.58	0.59
2.55	3.22	3.95	3.95	2.18	3.91	3.79	3.75	3.55	3.30	3.23	3.11	3.14
0.12	0.11	0.10	0.11	0.09	0.13	0.12	0.13	0.12	0.12	0.11	0.10	0.10
0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.05	0.08	0.07	0.08	0.11	0.12	0.11	0.13
0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
0.39	0.41	0.48	0.48	0.32	0.43	0.45	0.45	0.45	0.44	0.43	0.43	0.42
0.02	0.03	0.04	0.04	0.02	0.05	0.07	0.10	0.09	0.11	0.11	0.15	0.16
0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.05	0.05	0.06	0.06	0.05	0.06	0.05	0.06
	0.01					0.01						
0.20	0.16	0.17	0.16	0.15	0.20	0.21	0.23	0.19	0.20	0.20	0.19	0.20
0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01
0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02
0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03	0.05	0.03	0.05	0.02	0.04
	0.01					0.01						

10月				11月					12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
					0.01		0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00
0.48	0.43	0.36	0.30	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.30	0.37	0.41	0.32	1.38
0.08	0.10	0.09	0.10	0.12	0.15	0.18	0.20	0.23	0.25	0.28	0.32	0.19	0.21
0.44	0.48	0.49	0.60	0.51	0.54	0.57	0.50	0.61	0.69	0.74	0.71	0.37	0.57
2.15	2.30	2.24	2.59	2.66	3.23	3.84	4.06	5.26	6.66	7.44	7.81	4.19	3.11
0.08	0.09	0.07	0.08	0.10	0.13	0.12	0.14	0.16	0.14	0.18	0.16	0.10	0.11
1.53	1.71	1.62	1.53	1.52	1.41	1.70	1.41	1.22	1.14	1.00	0.87	0.46	0.47
0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.35	0.38	0.37	0.34	0.37	0.36	0.35	0.34	0.31	0.33	0.33	0.32	0.18	0.37
0.61	0.71	0.71	0.61	0.51	0.47	0.47	0.40	0.37	0.29	0.27	0.21	0.10	0.23
0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.04
0.01			0.01			0.01	0.01						0.00
0.22	0.22	0.21	0.19	0.21	0.19	0.19	0.17	0.21	0.17	0.19	0.20	0.10	0.19
0.03		0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01	0.02		0.01	0.02
0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01		0.03
													0.00
						0.01			0.01	0.01		0.01	0.00

2021 年　感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

		1月				2月				3月				
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	298	298	298	299	299	299	299	299	299	299	299	299	298
	小　児　科	196	196	196	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196
	眼　　科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基　　幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ		9	6	2	3	3	2	6	6	2	3	1	2	5
RSｳｲﾙｽ感染症		11	33	76	63	91	105	130	148	185	238	292	328	373
咽頭結膜熱		42	21	43	47	52	30	26	25	29	27	24	28	48
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		78	89	107	94	97	116	108	105	154	103	117	99	96
感染性胃腸炎		384	458	579	700	649	617	628	602	740	721	654	636	530
水痘		44	27	24	20	12	28	20	24	22	14	21	26	24
手足口病			2	8	4	2	6		3	5	2	2	3	3
伝染性紅斑		2	3	3	3	2	3	2	4	2	2	3	5	5
突発性発しん		55	60	77	74	78	66	63	54	58	73	67	68	62
ヘルパンギーナ		6	3	8	3	6	7	2	4	5	4	6	4	3
流行性耳下腺炎		7	5	9	8	12	2	8	5	7	4	8	4	7
急性出血性結膜炎				1										
流行性角結膜炎		5	2	5	9	12	2	4	4	6	3	3	8	2
合計（ＲＳｳｲ－流行性角結）		634	703	940	1,025	1,013	982	991	978	1,213	1,191	1,197	1,209	1,153
細菌性髄膜炎				1										1
無菌性髄膜炎			1	1		1		1				1		
マイコプラズマ肺炎														
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)										1				
合計（細菌性髄－ﾛﾀｳｲﾙｽ）			1	2		1		1		1		1		1

		7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	297	297	297	297	296	296	298	298	299	301	301	301	301
	小　児　科	197	197	197	197	196	196	198	198	198	198	198	198	198
	眼　　科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基　　幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ		1				1				2				
RSｳｲﾙｽ感染症		593	781	712	590	507	343	248	312	179	140	110	75	49
咽頭結膜熱		69	91	60	74	57	31	50	35	34	34	34	24	22
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		87	95	78	53	68	40	47	60	62	71	72	54	82
感染性胃腸炎		591	594	436	531	555	291	435	480	503	519	459	430	476
水痘		16	18	23	22	21	17	13	12	15	12	21	15	14
手足口病		19	6	11	11	11	7	13	34	45	62	89	147	305
伝染性紅斑		2	1	1	2			1		3	2	2	1	1
突発性発しん		82	67	62	70	65	44	52	64	53	69	70	54	55
ヘルパンギーナ		17	24	12	17	18	7	18	24	28	40	57	72	119
流行性耳下腺炎		21	19	10	11	9	3	13	4	10	11	15	12	15
急性出血性結膜炎					1	1	1			1			1	
流行性角結膜炎		2	9	4	4	3	2	3	16	7	7	2	9	6
合計（ＲＳｳｲ－流行性角結）		1,499	1,705	1,409	1,386	1,315	786	893	1,041	940	967	931	894	1,144
細菌性髄膜炎				1	1	1			2	1				
無菌性髄膜炎							1							
マイコプラズマ肺炎		1		1										
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1												
合計（細菌性髄－ﾛﾀｳｲﾙｽ）		2		2	1	1	1		2	1				

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
297	297	297	297	297	296	296	296	296	296	296	296	296
195	195	195	195	195	194	194	194	194	194	196	196	196
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
		2	2	1	1	2	1	2	1			5
410	623	752	614	433	546	801	980	938	811	737	655	544
30	30	32	50	28	47	54	80	103	90	88	87	85
103	129	152	137	67	143	102	149	141	143	124	123	84
622	771	924	787	405	689	578	666	609	564	528	519	609
17	15	15	25	15	19	10	9	9	11	12	17	17
3	4	9	6	2	15	13	9	12	16	11	10	12
6	3	5	1		3	5	3	4	4	2	2	
63	68	96	62	41	62	67	77	67	69	68	86	71
2	10	8	4	6	3	5	8	14	12	29	22	23
4	10	7	7	5	12	12	9	13	20	28	14	16
										1	1	
5	4	5	2	2	6	3	9	9	11	6	5	8
1,265	1,667	2,005	1,695	1,004	1,545	1,650	1,999	1,919	1,751	1,634	1,541	1,469
												1
		1	1	1							1	
1			1									
									1			1
1		1	2	1					1		1	2

10月				11月					12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	15515
197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	10217
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2704
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	832
1	1		3	4	3	1	1	1	4	1	2	1	94
46	43	26	21	15	22	42	36	31	37	45	75	63	16,058
13	17	15	22	23	29	26	29	35	39	44	53	31	2,237
108	104	67	96	85	83	68	62	71	74	88	74	46	4,855
507	535	468	591	651	775	947	1,055	1,612	1,999	2,140	2,458	1,146	37,353
13	21	20	18	19	20	25	20	25	15	22	17	9	960
476	637	665	695	841	724	811	663	487	391	272	186	81	7,851
3	3		3	2		1	1			2	1	2	111
68	60	70	60	72	64	57	59	52	49	51	51	35	3,307
147	210	238	245	240	202	168	123	103	62	47	50	22	2,517
8	12	4	3	10	9	7	2	9	8	6	3	2	479
3	1				1		1					1	15
6	8	6	4	6	9	5	2	6	5	6	3	2	282
1,398	1,651	1,579	1,758	1,964	1,938	2,157	2,053	2,431	2,679	2,723	2,971	1,440	76,025
		1											10
		1	1		1		1	1	1				16
						1							5
							1						5
		2	1		1	1	2	1	1				36

2021 年　感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

		1月				2月				3月				
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	298	298	298	299	299	299	299	299	299	299	299	299	298
	小　児　科	196	196	196	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196
	眼　　科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基　　幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02
RSウイルス感染症		0.06	0.17	0.39	0.32	0.46	0.53	0.66	0.75	0.94	1.21	1.48	1.66	1.90
咽頭結膜熱		0.21	0.11	0.22	0.24	0.26	0.15	0.13	0.13	0.15	0.14	0.12	0.14	0.24
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		0.40	0.45	0.55	0.48	0.49	0.59	0.55	0.53	0.78	0.52	0.59	0.50	0.49
感染性胃腸炎		1.96	2.34	2.95	3.55	3.29	3.13	3.19	3.06	3.76	3.66	3.32	3.23	2.70
水痘		0.22	0.14	0.12	0.10	0.06	0.14	0.10	0.12	0.11	0.07	0.11	0.13	0.12
手足口病			0.01	0.04	0.02	0.01	0.03		0.02	0.03	0.01	0.01	0.02	0.02
伝染性紅斑		0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03
突発性発しん		0.28	0.31	0.39	0.38	0.40	0.34	0.32	0.27	0.29	0.37	0.34	0.35	0.32
ヘルパンギーナ		0.03	0.02	0.04	0.02	0.03	0.04	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02	0.02
流行性耳下腺炎		0.04	0.03	0.05	0.04	0.06	0.01	0.04	0.03	0.04	0.02	0.04	0.02	0.04
急性出血性結膜炎				0.02										
流行性角結膜炎		0.10	0.04	0.10	0.17	0.23	0.04	0.08	0.08	0.12	0.06	0.06	0.15	0.04
細菌性髄膜炎				0.06										0.06
無菌性髄膜炎			0.06	0.06		0.06		0.06				0.06		
マイコプラズマ肺炎														
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)										0.06				

		7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	297	297	297	297	296	296	298	298	299	301	301	301	301
	小　児　科	197	197	197	197	196	196	198	198	198	198	198	198	198
	眼　　科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基　　幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		0.00				0.00				0.01				
RSウイルス感染症		3.01	3.96	3.61	2.99	2.59	1.75	1.25	1.58	0.90	0.71	0.56	0.38	0.25
咽頭結膜熱		0.35	0.46	0.30	0.38	0.29	0.16	0.25	0.18	0.17	0.17	0.17	0.12	0.11
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		0.44	0.48	0.40	0.27	0.35	0.20	0.24	0.30	0.31	0.36	0.36	0.27	0.41
感染性胃腸炎		3.00	3.02	2.21	2.70	2.83	1.48	2.20	2.42	2.54	2.62	2.32	2.17	2.40
水痘		0.08	0.09	0.12	0.11	0.11	0.09	0.07	0.06	0.08	0.06	0.11	0.08	0.07
手足口病		0.10	0.03	0.06	0.06	0.06	0.04	0.07	0.17	0.23	0.31	0.45	0.74	1.54
伝染性紅斑		0.01	0.01	0.01	0.01			0.01		0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
突発性発しん		0.42	0.34	0.31	0.36	0.33	0.22	0.26	0.32	0.27	0.35	0.35	0.27	0.28
ヘルパンギーナ		0.09	0.12	0.06	0.09	0.09	0.04	0.09	0.12	0.14	0.20	0.29	0.36	0.60
流行性耳下腺炎		0.11	0.10	0.05	0.06	0.05	0.02	0.07	0.02	0.05	0.06	0.08	0.06	0.08
急性出血性結膜炎					0.02	0.02	0.02			0.02			0.02	
流行性角結膜炎		0.04	0.17	0.08	0.08	0.06	0.04	0.06	0.31	0.13	0.13	0.04	0.17	0.12
細菌性髄膜炎				0.06	0.06	0.06			0.13	0.06				
無菌性髄膜炎							0.06							
マイコプラズマ肺炎		0.06		0.06										
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0.06												

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
297	297	297	297	297	296	296	296	296	296	296	296	296
195	195	195	195	195	194	194	194	194	194	196	196	196
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
		0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00			0.02
2.10	3.19	3.86	3.15	2.22	2.81	4.13	5.05	4.84	4.18	3.76	3.34	2.78
0.15	0.15	0.16	0.26	0.14	0.24	0.28	0.41	0.53	0.46	0.45	0.44	0.43
0.53	0.66	0.78	0.70	0.34	0.74	0.53	0.77	0.73	0.74	0.63	0.63	0.43
3.19	3.95	4.74	4.04	2.08	3.55	2.98	3.43	3.14	2.91	2.69	2.65	3.11
0.09	0.08	0.08	0.13	0.08	0.10	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06	0.09	0.09
0.02	0.02	0.05	0.03	0.01	0.08	0.07	0.05	0.06	0.08	0.06	0.05	0.06
0.03	0.02	0.03	0.01		0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	
0.32	0.35	0.49	0.32	0.21	0.32	0.35	0.40	0.35	0.36	0.35	0.44	0.36
0.01	0.05	0.04	0.02	0.03	0.02	0.03	0.04	0.07	0.06	0.15	0.11	0.12
0.02	0.05	0.04	0.04	0.03	0.06	0.06	0.05	0.07	0.10	0.14	0.07	0.08
										0.02	0.02	
0.10	0.08	0.10	0.04	0.04	0.12	0.06	0.17	0.17	0.21	0.12	0.10	0.15
												0.06
		0.06	0.06	0.06							0.06	
0.06			0.06									
									0.06			0.06

10月				11月					12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	15515
197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	10217
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2704
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	832
0.00	0.00		0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01
0.23	0.22	0.13	0.11	0.08	0.11	0.21	0.18	0.16	0.19	0.23	0.38	0.32	1.58
0.07	0.09	0.08	0.11	0.12	0.15	0.13	0.15	0.18	0.20	0.22	0.27	0.16	0.22
0.55	0.53	0.34	0.49	0.43	0.42	0.35	0.31	0.36	0.38	0.45	0.38	0.23	0.48
2.57	2.72	2.38	3.00	3.30	3.93	4.81	5.36	8.18	10.15	10.86	12.48	5.82	3.66
0.07	0.11	0.10	0.09	0.10	0.10	0.13	0.10	0.13	0.08	0.11	0.09	0.05	0.09
2.42	3.23	3.38	3.53	4.27	3.68	4.12	3.37	2.47	1.98	1.38	0.94	0.41	0.77
0.02	0.02		0.02	0.01		0.01	0.01			0.01	0.01	0.01	0.01
0.35	0.30	0.36	0.30	0.37	0.32	0.29	0.30	0.26	0.25	0.26	0.26	0.18	0.32
0.75	1.07	1.21	1.24	1.22	1.03	0.85	0.62	0.52	0.31	0.24	0.25	0.11	0.25
0.04	0.06	0.02	0.02	0.05	0.05	0.04	0.01	0.05	0.04	0.03	0.02	0.01	0.05
0.06	0.02				0.02		0.02					0.02	0.01
0.12	0.15	0.12	0.08	0.12	0.17	0.10	0.04	0.12	0.10	0.12	0.06	0.04	0.10
		0.06											0.01
		0.06	0.06		0.06		0.06	0.06	0.06				0.02
						0.06							0.01
							0.06						0.01

2021 年　感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

（ブロック別）

	疾病名 ＼ ブロック名	01 豊能	02 三島	03 北河内	04 中河内	05 南河内	06 堺市	07 泉州	08 大阪市北部	09 大阪市西部	10 大阪市東部	11 大阪市南部	合 計
定点数	*1　ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	1,768	1,287	2,111	1,612	1,248	1,508	1,702	1,040	780	1,108	1,351	15,515
	*2　小児科	1,173	871	1,342	1,040	832	988	1,026	728	520	744	953	10,217
	*3　眼科	260	208	312	260	208	260	312	260	104	312	208	2,704
	*4　基幹	104	104	104	104	52	104	52	52	52	52	52	832
*1	インフルエンザ	2	6	10	5	4	4	11	9	40		3	94
*2	RSウイルス感染症	1,090	887	2,655	1,277	2,301	958	1,405	2,192	1,012	915	1,366	16,058
	咽頭結膜熱	118	124	291	289	249	127	358	210	103	163	205	2,237
	Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	111	261	749	1,191	434	251	606	227	161	143	721	4,855
	感染性胃腸炎	3,074	2,934	5,496	4,592	4,508	2,919	3,875	2,779	1,714	1,303	4,159	37,353
	水痘	97	71	176	115	64	67	124	72	49	52	73	960
	手足口病	423	439	1,601	949	915	659	711	781	227	406	740	7,851
	伝染性紅斑	12	3	20	10	21	7	12	9	3	6	8	111
	突発性発しん	363	189	568	461	380	176	362	263	122	142	281	3,307
	ヘルパンギーナ	125	132	339	326	239	231	321	412	113	109	170	2,517
	流行性耳下腺炎	40	31	99	53	50	30	53	48	36	14	25	479
*3	急性出血性結膜炎			2	3	2		4	2	1	1		15
	流行性角結膜炎	24	16	44	39	16	21	31	25	8	48	10	282
	合　　計	5,477	5,087	12,040	9,305	9,179	5,446	7,862	7,020	3,549	3,302	7,758	76,025
*4	細菌性髄膜炎		4				5				1		10
	無菌性髄膜炎	4			2	4	6						16
	マイコプラズマ肺炎	1			2		1			1			5
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）												
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1						1	1	1		5
	合計｛細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎(ロタウイルス)｝	6	5		4	4	12		1	2	2		36
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	100	84	51	39	345	49	49	46	9		62	834
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5		1		37	3	32		1			79
	薬剤耐性緑膿菌感染症	2		5	1					2			10
	合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性緑膿菌感染症）	107	84	57	40	382	52	81	46	12		62	923

*1　インフルエンザ定点把握疾患
*2　小児科定点把握疾患
*3　眼科定点把握疾患
*4　基幹定点把握疾患
報告数が0の場合には空白としている

2021 年　感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

（年齢別）

	年齢区分	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から29歳	30歳から39歳	40歳から49歳	50歳から59歳	60歳から	合計
*1	インフルエンザ	4	4	14	14	3	7	4	3	2	1	1	7	1	29					94
*2	RSウイルス感染症	1,420	2,029	5,037	3,980	2,088	968	329	91	29	19	8	15	6	39					16,058
	咽頭結膜熱	16	218	951	477	218	144	57	34	17	15	7	13	8	62					2,237
	A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2	39	333	549	626	668	566	439	292	268	223	449	90	311					4,855
	感染性胃腸炎	419	2,346	6,698	5,771	4,345	3,423	2,556	1,845	1,350	1,181	1,039	2,786	731	2,863					37,353
	水痘	11	42	65	50	65	79	126	96	71	67	70	165	14	39					960
	手足口病	68	629	3,543	2,258	716	264	140	61	27	22	22	42	5	54					7,851
	伝染性紅斑		13	19	11	13	15	11	7	7	5	5	5							111
	突発性発しん	38	1,001	1,757	380	95	36													3,307
	ヘルパンギーナ	18	162	868	817	280	118	52	43	17	11	18	16	4	93					2,517
	流行性耳下腺炎		1	24	20	47	71	70	62	51	43	24	53	3	10					479
*3	急性出血性結膜炎														15					15
	流行性角結膜炎	1	1	11	6	4	4	2	4	2	1	1	6	6	233					282
	合　　計	1,993	6,481	19,306	14,319	8,497	5,790	3,909	2,682	1,863	1,632	1,417	3,550	867	3,719					76,025
*4	細菌性髄膜炎	3																	7	10
	無菌性髄膜炎	2											3	2	2	5	2			16
	マイコプラズマ肺炎				1		1								2				1	5
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）																			
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1					1					2				1				5
合計｛細菌性髄膜炎－感染性胃腸炎(ロタウイルス)｝		6			1		2					2	3	2	4	6	2		8	36
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		29	3	9	7	5	5	3	3	1	1	4	15	7	16	36	54	75	561	834
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		4	13	20	11	6	2	1	1		1		2	1		1		2	14	79
薬剤耐性緑膿菌感染症																	1	4	5	10
合計（ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症－薬剤耐性緑膿菌感染症）		33	16	29	18	11	7	4	4	1	2	4	17	8	16	37	55	81	580	923

*1　インフルエンザ定点把握疾患
*2　小児科定点把握疾患
*3　眼科定点把握疾患
*4　基幹定点把握疾患
報告数が0の場合には空白としている

2.　各感染症状況報告

1）インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

令和 3 年（2021 年）のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2020/2021 年シーズンを第 36 週以降は 2021/2022 年シーズンが反映されている。令和 3 年のインフルエンザ定点からの累積報告数は、全国 1,071（定点あたり累積報告数 0.22）、大阪府 94（定点あたり累積報告数 0.32）であり、前年の累積報告数（全国 563,487、大阪府 42,961）や前々年の累積報告数（全国 1,875,890、大阪府 88,386）を大幅に下回り、年間を通して流行が見られなかった。これは新型コロナウイルスの流行が影響している可能性が考慮されるが、2020 年第 13 週以降は、全国、大阪府共に定点あたり報告数が 1.00 を下回った状態が現在まで続いている（図）。

2021 年の国内のインフルエンザウイルス株の検出状況をみると、（https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html）総検出数は 6 株（全て AH3）であり、2020 年の 2,710 株、2019 年の 8,180 株から著減していた。大阪府内からはインフルエンザウイルスの検出報告はみられなかった。患者発生数の大幅な減少と合わせると、2021 年はインフルエンザウイルスがほとんど国内を循環していなかったと思われる。

インフルエンザの定点あたり報告数は全国、大阪府共に 0.10 を下回っている状態が現在まで継続しており、2 年間以上に渡って流行が見られない状況となっている。インフルエンザウイルスは世界から消滅したわけではなく、現在は新型コロナウイルスの流行の影響が関与しているものと思われるものの、これまで長い年月に渡って人類の間で繰り返されてきたインフルエンザの流行は、いずれは再開していくものと推察される。一方で、インフルエンザの流行が見られない期間が長期に渡るほど、インフルエンザに対する免疫が低下もしくは殆どないいわゆる感受性者が蓄積していくと考えられ、これにより一旦流行が始まった場合の流行規模は大きくなることが予想される。　（文責：安井）

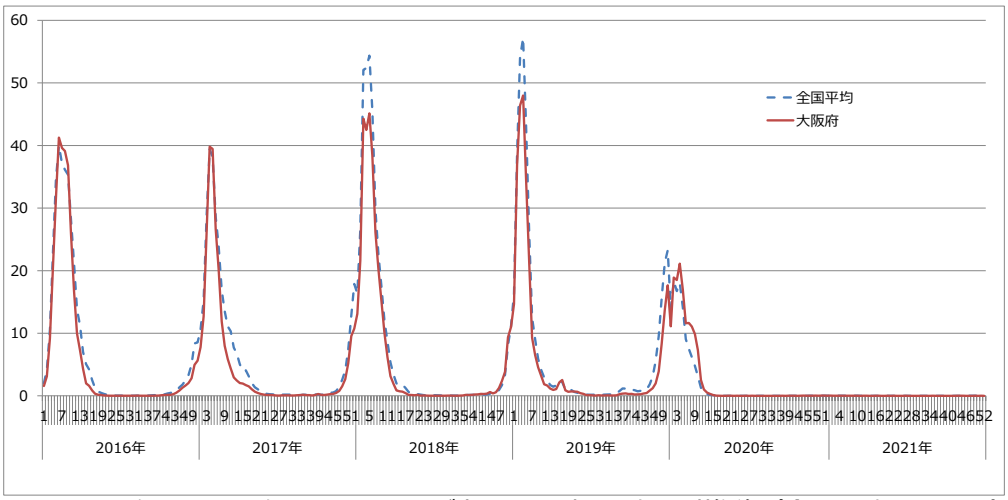
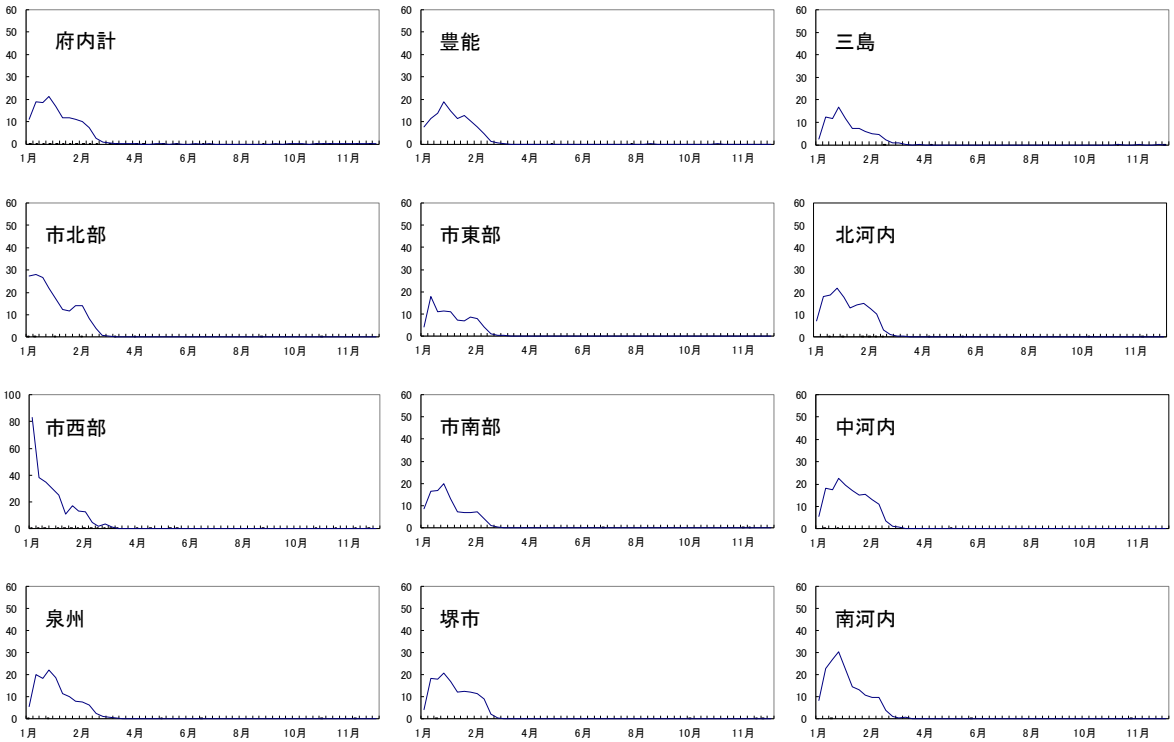


図　2016 年～2021 年のインフルエンザ定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

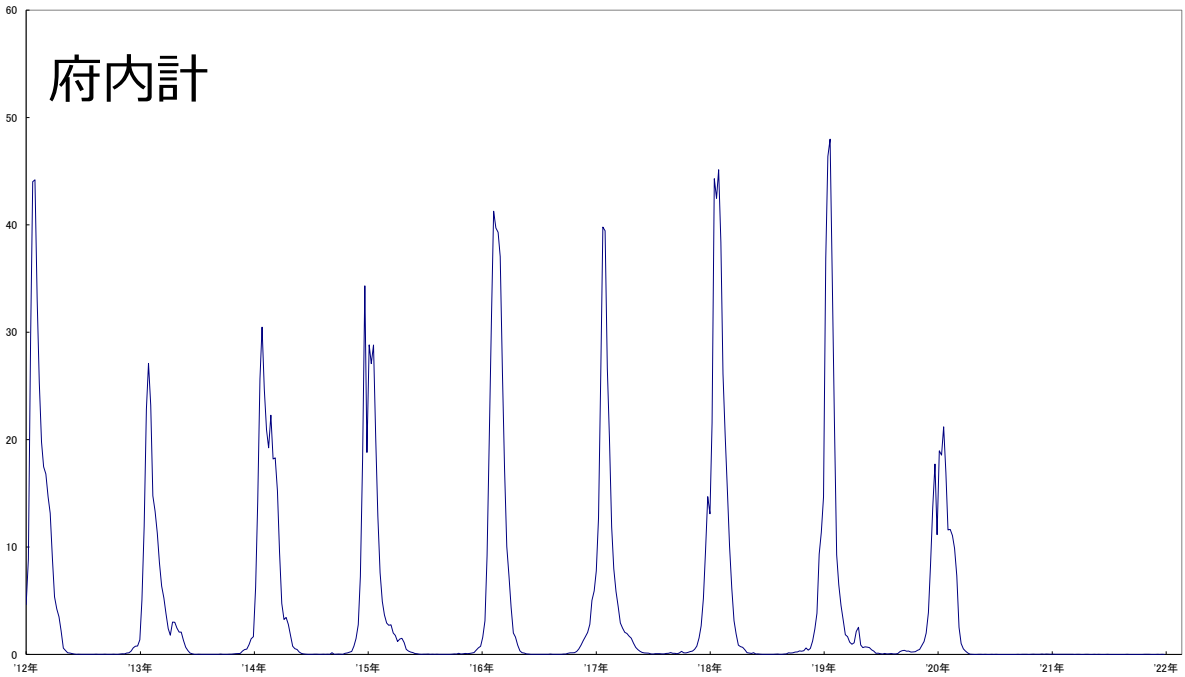
インフルエンザ

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたりインフルエンザ報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

２）小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2021 年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 16,058 例で、前年比 14.2 倍の報告数となり、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 21.1%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 1.58 で順位は第 2 位であった。

全国集計においては 226,960 例の報告で、前年比 12.5 倍、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 21.1%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 1.38、順位は第 2 位となり、大阪府・全国ともにここ 10 年間で最大の報告数であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.06 に始まり以後増加し第 16 週（4 月） に 3.86、第 21 週（5 月）に年間最大の 5.05、第 28 週（7 月）に 3.96 となる 3 峰性の経過をたどり、第 29 週（7 月）以後は第 44 週（11 月）の 0.08 まで減少した。第 45 週（11 月）以降は緩やかに増加し、第 51 週（12 月）に 0.38 となり、第 52 週（12 月）は 0.32 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.08 に始まり以後増加し、第 16 週（4 月）に 1.40 と小さなピークを示した後、第 19 週（5 月）以降再度増加し、第 28 週（7 月）に年間最大の 5.99 となった。第 29 週（7 月）以降は減少し、第 44 週（11 月）から第 48 週（11 月）にかけて 0.25 程度で推移し、49 週（12 月）以降は緩やかに上昇し、第 51 週（12 月）に 0.41 となり第 52 週（12 月）は 0.32 であった。RS ウイルス感染症は近年 7 月頃から報告数が増加し 9 月頃にピークを迎えていたが、2021 年では報告数増加の立ち上りと報告数のピークは例年よりも早い時期に見られた。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 5,037 例が最も多く、以下 2 歳児 3,980 例、3 歳児の 2,088 例、6 か月以上 12 か月未満児の 2,029 例と続く。例年よりも年長の児の占める割合が多く、0 歳児から 2 歳児の割合は 77.6%であった。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは③北河内（2,655 例）、⑤南河内（2,301 例）、⑧大阪市北部（2,192 例）、⑦泉州（1,405 例）、⑪大阪市南部（1,366 例）であった。

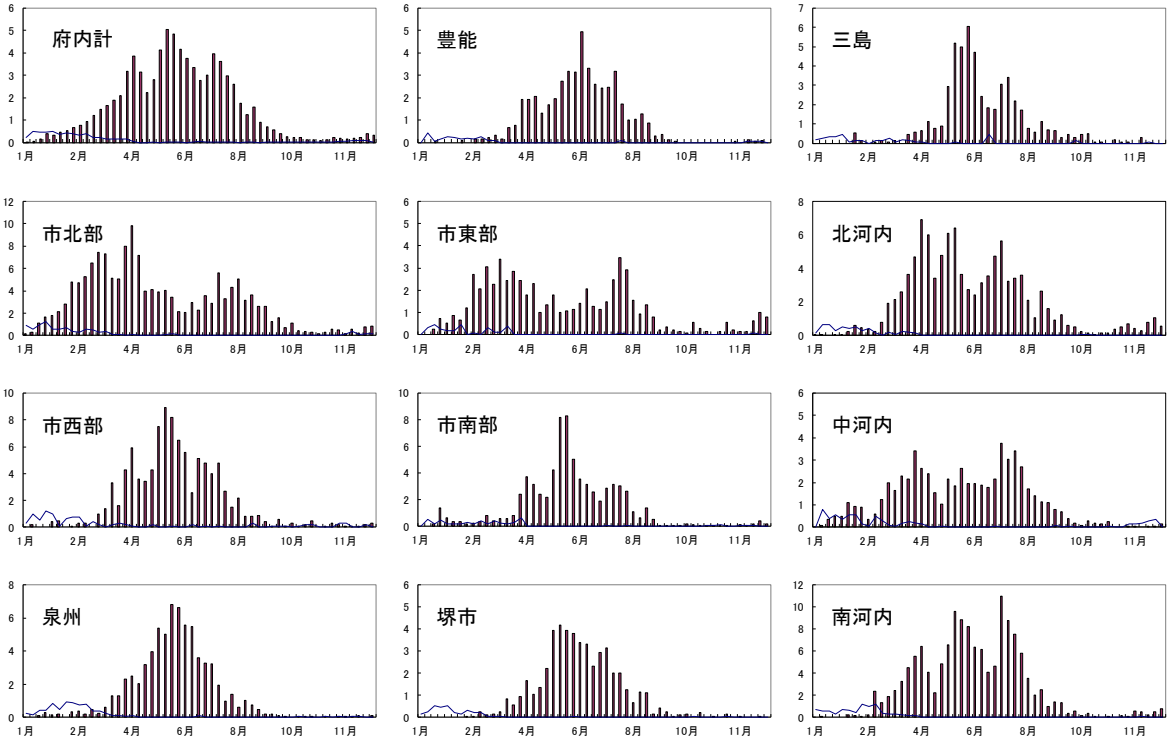
ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑧大阪市北部（3.01）、⑤南河内（2.77）、③北河内（2.00）、⑨大阪市西部（1.95）、⑪大阪市南部（1.46）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は 151 件で、そのうち 113 検体（74.8%）からウイルスが検出された。内訳は重複例を含めて RS ウイルス A 型が 72 例、RS ウイルス B 型が 40 例であった。その他にライノウイルスが 10 例、アデノウイルス、ヒトボカウイルス、パラインフルエンザウイルス 3 型、パラインフルエンザウイルス 4 型がそれぞれ 2 例、コクサッキーウイルス A6 型、ヒトコロナウイルス NL63 型がそれぞれ 1 例であった。

（文責：山本）

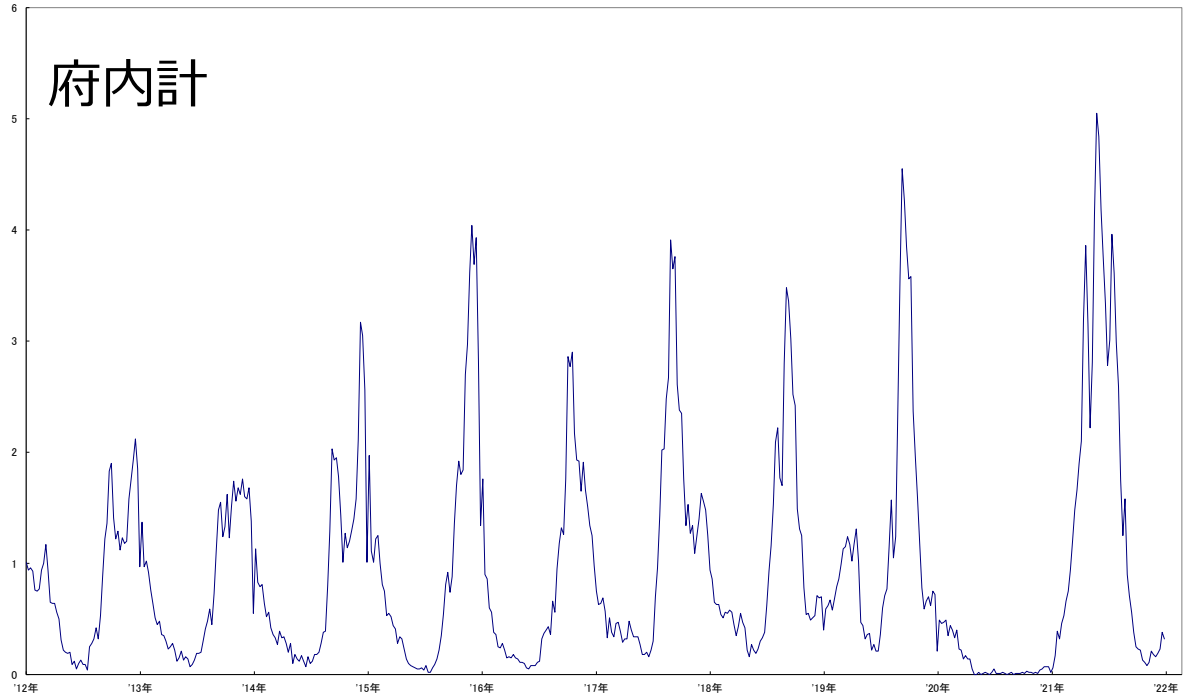
RS ウイルス感染症

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり RS ウイルス感染症報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●咽頭結膜熱

2021 年の咽頭結膜熱の患者報告数は 2,237 例で、前年比 9.2%増、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 2.9%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.22 で、順位は第 7 位であった。

全国集計においては 34,078 例の報告で、前年比 3.0%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 3.2%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.21 で、順位は第 7 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.21 に始まり第 20 週（5 月）までは 0.1-0.3 程度の範囲で小幅に増減していた。第 21 週（5 月）から増加し第 22 週（5 月）には年間最高の 0.53 となった後漸減し第 31 週（8 月）までは 0.3-0.4 程度で推移した。第 32 週（8 月）以降は第 48 週（11 月）までは 0.2 未満で推移した。第 49 週(12 月)以降、軽度な上昇が見られ第 51 週（12 月）には 0.27 に達した。第 52 週（12 月）は 0.16 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.2 7 に始まり第 18 週（5 月）までは 0.3 未満で推移した。第 19 週（5 月）以降上昇し第 24 週（6 月）には年間最大の 0.43 となった。第 25 週（6 月）以降は漸減し、第 29 週（7 月）から第 47 週（11 月）までは 0.2 以下で推移した。第 48 週（11 月）以降再度上昇し第 51 週（12 月）には 0.32 となった。第 52 週（12 月）は 0.19 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 951 例が最も多く、以下 2 歳児の 477 例、6 か月以上 12 か月未満児・3 歳児の 218 例、4 歳児の 144 例で、0 歳児から 5 歳児で全体の 93.0%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは⑦泉州（358 例）、③北河内（291 例）、④中河内（289 例）、⑤南河内（249 例）、⑧大阪市北部（210 例）であった。

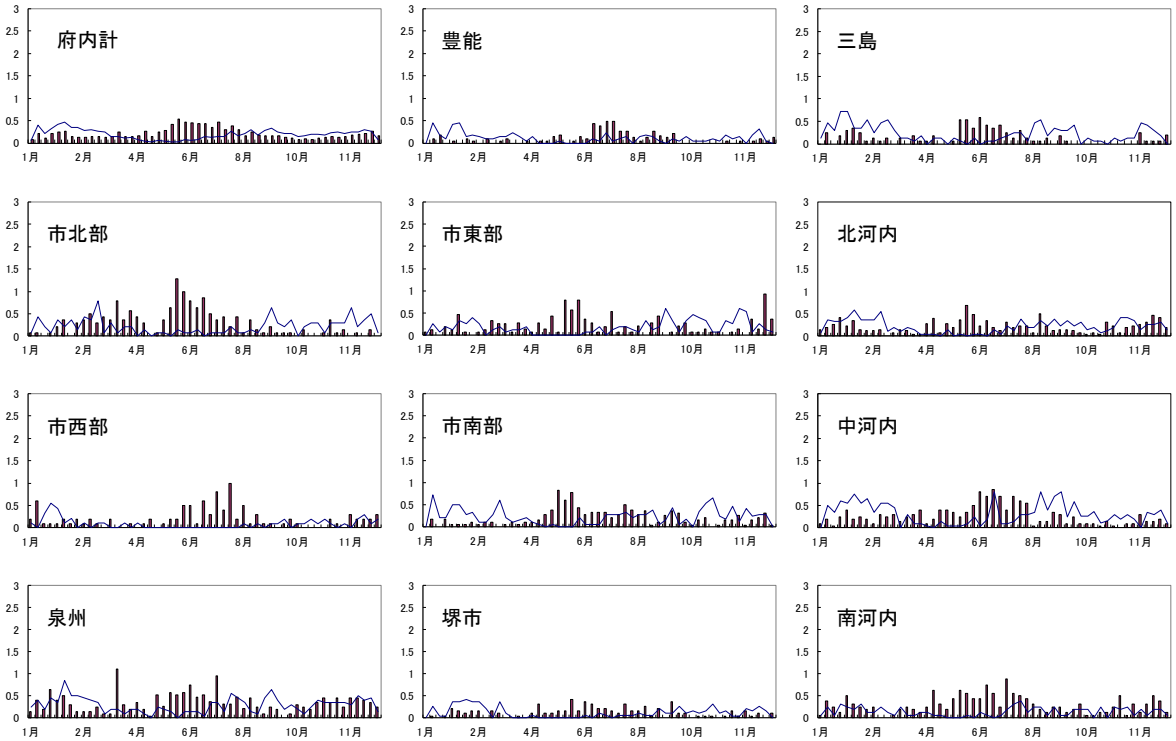
ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑦泉州（0.35）、⑤南河内（0.30）、⑧大阪市北部（0.29）、④中河内（0.28）、③北河内・⑩大阪市東部・⑪大阪市南部（0.22）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は 16 件で、そのうち 8 検体（50.0%）からウイルスが検出された。内訳は重複例を含めてアデノウイルス 1 型が 4 例、アデノウイルス 2 型とライノウイルスがそれぞれ 2 例、RS ウイルス B 型が 1 例であった。

（文責：山本）

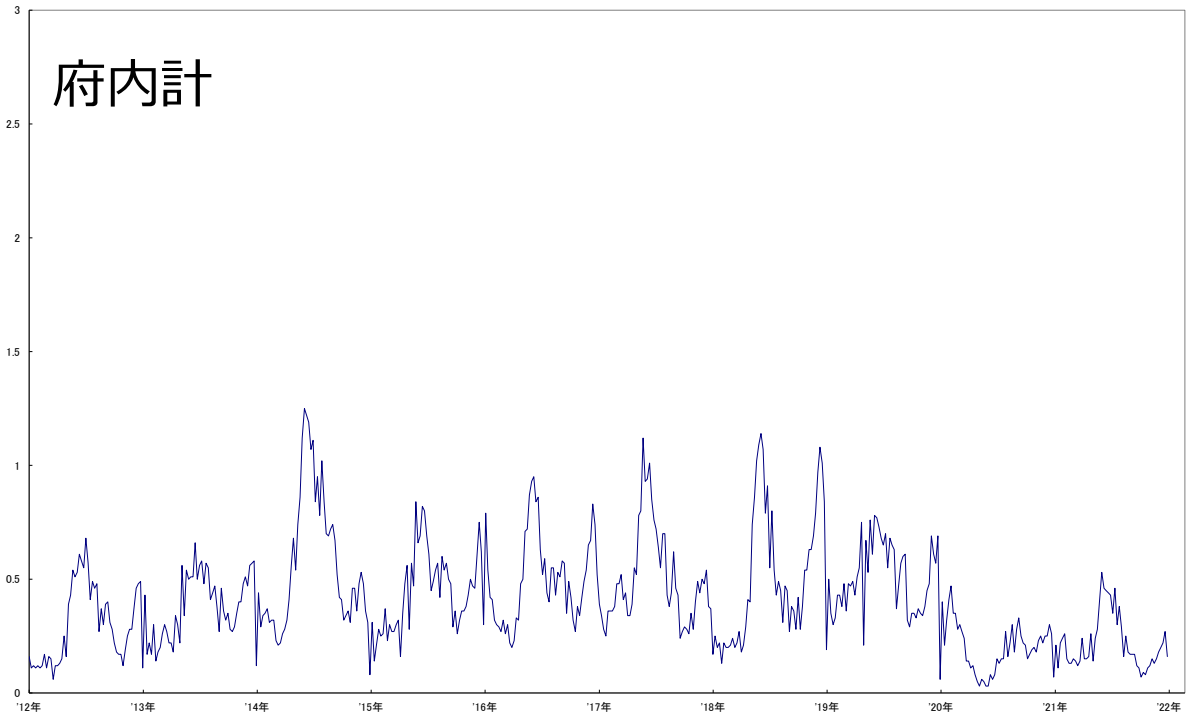
咽頭結膜熱

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2021 年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 4,855 例で、前年比 48.3%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 6.4%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.48 で、順位は第 4 位であった。

全国集計では 94,073 例の報告で、前年比 53.0%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 8.8%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.57 で、順位は第 3 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通して 2 標準偏差以上の変動はなく、4 月から 6 月にかけて 1 標準偏差以上増加し、8 月から 9 月にかけて 1 標準偏差以上減少した。例年にみられた冬のピークは認められなかった。年間最高値は第 9 週（3 月）と第 16 週（4 月）の 0.78 で、年間最低値は第 32 週（8 月）の 0.20 であった。

全国集計でも、年間を通して 2 標準偏差以上の変動はなく、2 月から 4 月にかけて 1 標準偏差以上増加し、8 月から 9 月にかけて 1 標準偏差以上減少した。全国では報告数の明らかなピークは認められなかった。年間最高値は第 5 週（2 月）と第 10 週（3 月）の 0.79 で、年間最低値は第 32 週（8 月）と第 38 週（9 月）の 0.30 であった。

年齢別患者報告数は、4 歳の 668 例が最も多く、以下 3 歳 626 例、5 歳 566 例、2 歳 549 例、10 歳から 14 歳 449 例、6 歳 439 例と続き、2 歳から 6 歳で全体の 58.7%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（1,191 例）、③北河内（749 例）、⑪大阪市南部（721 例）、⑦泉州（606 例）、⑤南河内（434 例）の順であった。

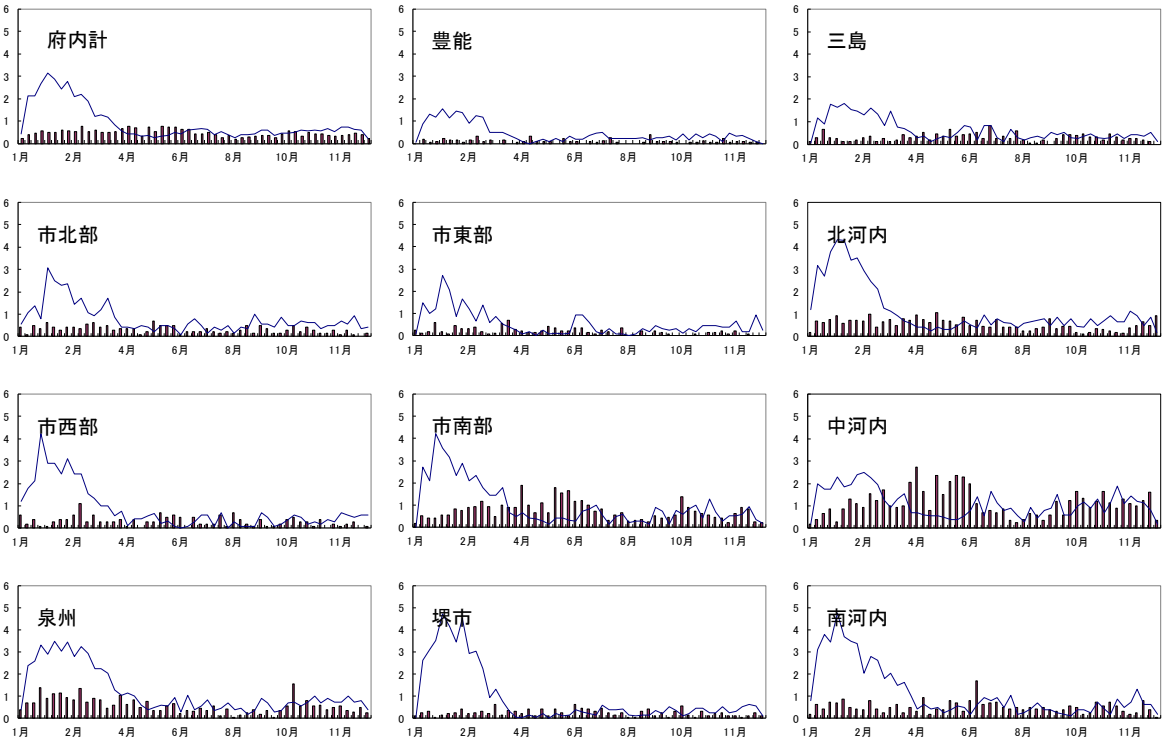
ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは、④中河内（1.15）、⑪大阪市南部（0.76）、⑦泉州（0.59）、③北河内（0.56）、⑤南河内（0.52）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（第 16 週、2.75）、④中河内（第 19 週、2.35）、④中河内（第 22 週、2.35）、④中河内（第 23 週、2.30）、④中河内（第 21 週、2.10）の順であった。ブロック別・年間、ブロック別・週別ともに、④中河内での報告数が多いのが目立っていた。

（文責：冨吉）

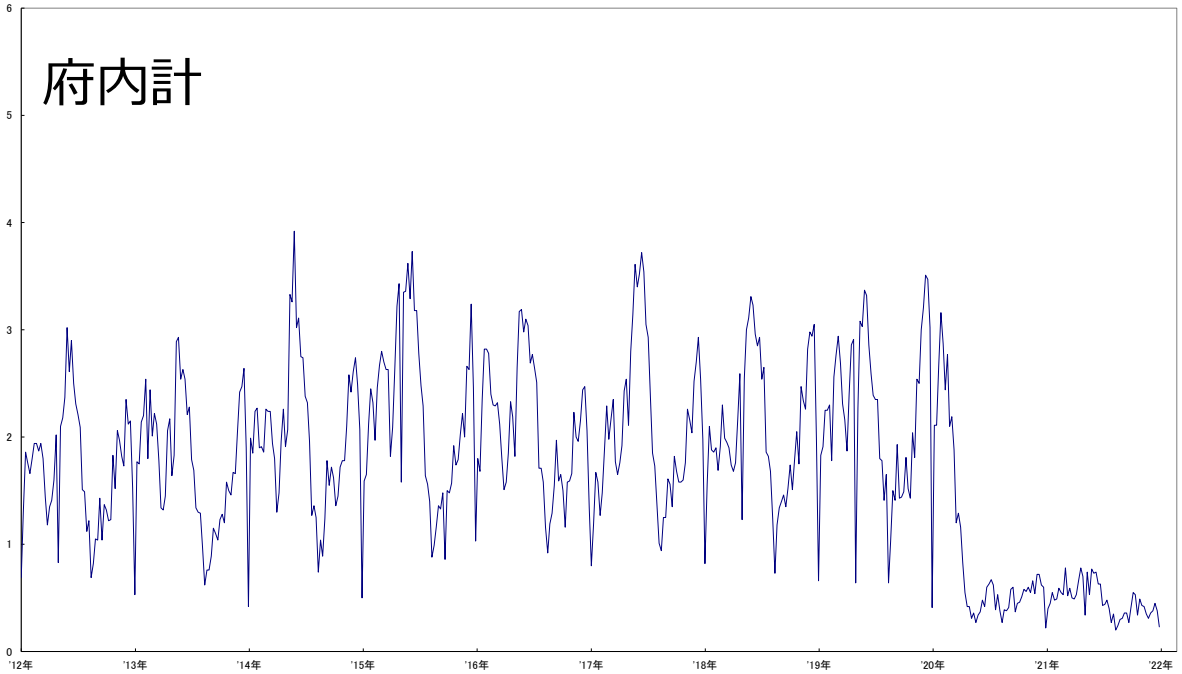
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●感染性胃腸炎

2021 年の感染性胃腸炎の報告数は 37,353 例で、前年より 13,661 例、57.7%増加した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 49.1%を占め、第 1 位であった。定点あたり報告数の年平均は 3.66 で、前年 2.28 より 60.5%の増加であったが、過去 10 年でみると最低値であった昨年に続き 2 番目の低値であった。全国集計では報告数 509,758 例で、前年より 21.4%増加し、総報告数の 47.5%を占めた。定点あたり報告数は年平均 3.11 と前年 2.51 より 23.9%増加し、過去 10 年で 2 番目の低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 1.96 から第 4 週 3.55 へと緩やかに増加した後、第 8 週の 3.06 まで緩やかに低下した。第 9 週に 3.76 まで急激に増加した後、第 13 週の 2.70 まで緩やかに低下した。その後第 16 週の 4.74 まで急激に増加した後、第 18 週に 2.08 まで低下した。第 19 週に 3.55 となった後 2 から 3 の間で徐々に低下し、第 32 週に年間最低値である 1.48 となった。その後、第 33 週から第 42 週までは 2 台でほぼ横ばいであったが、第 43 週に 3.00 となって以降急激に増加傾向となり、第 51 週に年間最高値 12.48 に達した後、第 52 週には 5.82 となった。全国集計では、第 1 週 2.22 から緩やかに増加し、第 3 週に 2.92 に達した。その後緩やかに減少し、第 8 週に 2.54 となった。その後第 9 週に 2.93 と上昇した後再び減少し、第 13 週に 2.33 となった。その後急速に増加し、第 16 週・第 17 週は 3.95 となった。第 18 週に 2.18 に減少したが、第 19 週に再び 3.91 と増加し、その後は 2-4 台を緩やかに減少し、第 32 週には年間最低値の 1.48 となった。第 42 週の 2.59 までは緩やかに増加していたが、それ以降急速に増加し、第 51 週には年間最高値の 7.81 に達した後、第 52 週には 4.19 となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、11 月、4 月、3 月、2 月、5 月の順で高かった。秋から冬にかけてのピークを認めなかった昨年と異なり、春から初夏にかけて二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋から増加し始め冬にピークを持つ流行曲線は例年通りであった。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値 20.0 を超えたブロックは無かった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 5.42、④中河内 4.42、⑪大阪市南部 4.34、③北河内 4.09、⑧大阪市北部 3.82、⑦泉州 3.77、②三島 3.40、⑨大阪市西部 3.30、⑥堺市 2.95、①豊能 2.62、⑪大阪市東部 1.76 の順であった。

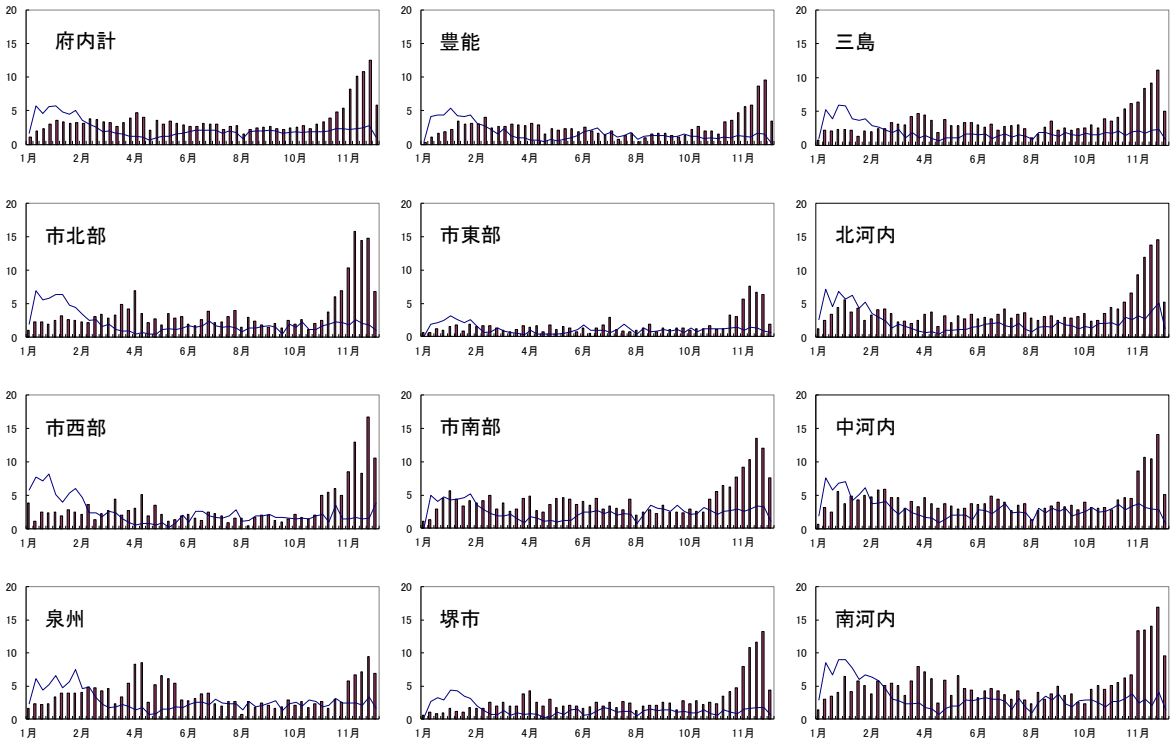
年齢別報告数（0~9 歳）は、1 歳、2 歳、3 歳、4 歳、0 歳、5 歳、6 歳、7 歳、8 歳、9 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数は 23,002 例で全体の 61.6%を占めた。5～9 歳が 7,971 例（21.3%）、10～14 歳が 2,786 例（7.5%）、15 歳以上が 3,594 例（9.6%）で、各年齢の全体に占める割合は例年と較べて 4 歳以下が増加し、5 歳以上が減少した。

ウイルス検出は 134 検体のうち陽性だったのは 74 検体で、陽性率 55.2%であった。病原体別でみると、ノロウイルス 46 件（陽性検体の 62.2%、うちノロウイルス GII. 2 が 27 件）、サポウイルスが 14 件（陽性検体の 19.0%）、アストロウイルス 6 件（陽性検体の 8.1%）等であった。

（文責：吉田）

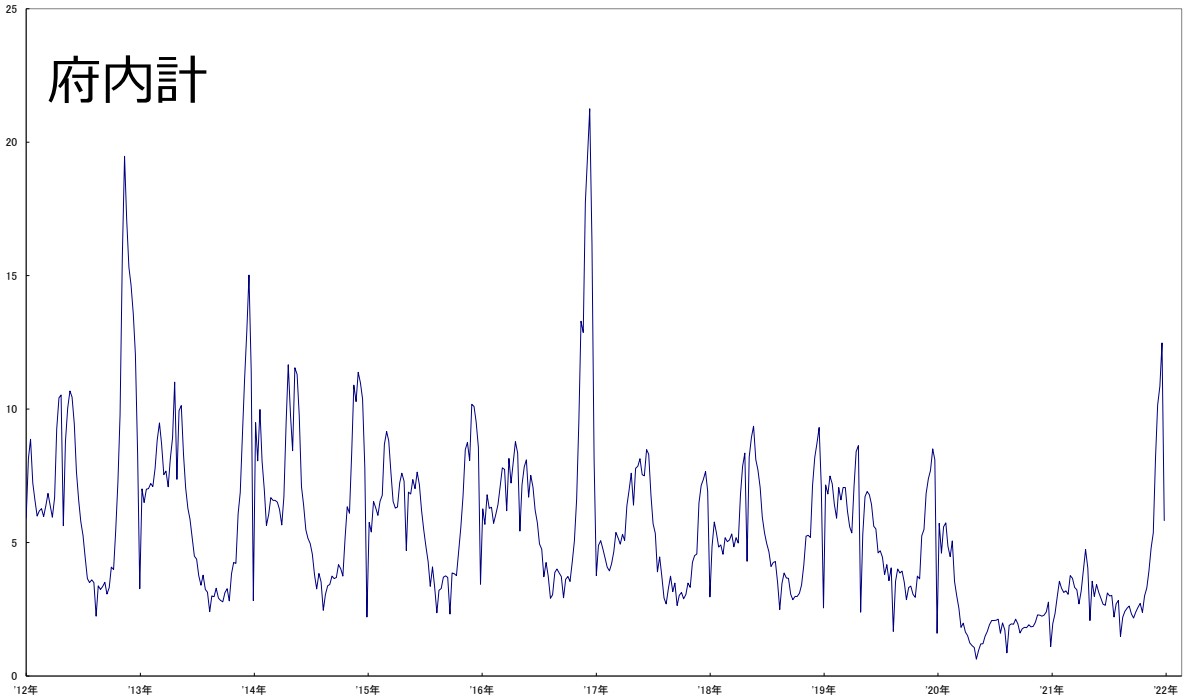
感染性胃腸炎

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり感染性胃腸炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●水痘

2021 年の水痘の報告数は 960 例で、前年 1,776 例より 816 例、45.9%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 1.3%を占め、第 8 位であった。2008 年～2010 年は第 2～3 位であったが、2011 年～2014 年は第 3~4 位、2015 年は第 5 位であり、2016 年以降は 8～9 位と年々減少し、2020 年は第 5 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.09 で、前年 0.17 より 47.1%減少した。全国集計では報告数 17,782 例で前年 31,768 例より 13,986 例、44.0%減少した。総報告数の 1.7%を占め、定点あたり報告数は年平均 0.11 と前年 0.19 より 42.1%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週に年間最高値の 0.22 から急速に減少し、第 5 週に 0.06 となった後、小刻みに増減を繰り返し 0.06 から 0.14 の間を推移した。第 19 週に 0.10 となった後急速に減少し、第 20 週に年間最低値である 0.05 となった。その後緩やかに増加し、第 9 週に 0.12 となった。その後緩やかに減少し、第 34 週に 0.06 となった。その後小刻みに増減を繰り返しながら増加し、第 46 週に 0.13 となった後、増減を繰り返しながら減少し、第 52 週に 0.05 となった。全国集計では、第 1 週に年間最高値である 0.19 から急速に減少し第 3 週に 0.11 となった後、増減を繰り返しながら減少し、第 18 週に 0.09 となった。第 19 週に急増し 0.13 になった後、増減を繰り返しながら減少し、第 29 週には年間最低値である 0.07 となった。その後、小刻みに増減を繰り返し 0.07 から 0.10 の間を推移し、第 41 週に 0.07 となった。その後急速に増加し、第 51 週には 0.18 となった。その後減少し、第 52 週に 0.10 となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、1 月、6 月、11 月、10 月、3 月、5 月、2 月、9 月、12 月、8 月、7 月、4 月の順で高かった。冬と春に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとる流行曲線は例年通りであった。定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、いずれも前年よりも低値であり、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった 1999 年以降の 22 年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、③北河内 0.13、⑦泉州 0.12、④中河内 0.11、⑧大阪市北部 0.10、⑨大阪市西部 0.09、①豊能 0.08、②三島 0.08、⑪大阪市南部 0.08、⑤南河内 0.08、⑩大阪市東部 0.07、⑥堺市 0.07 の順であった。

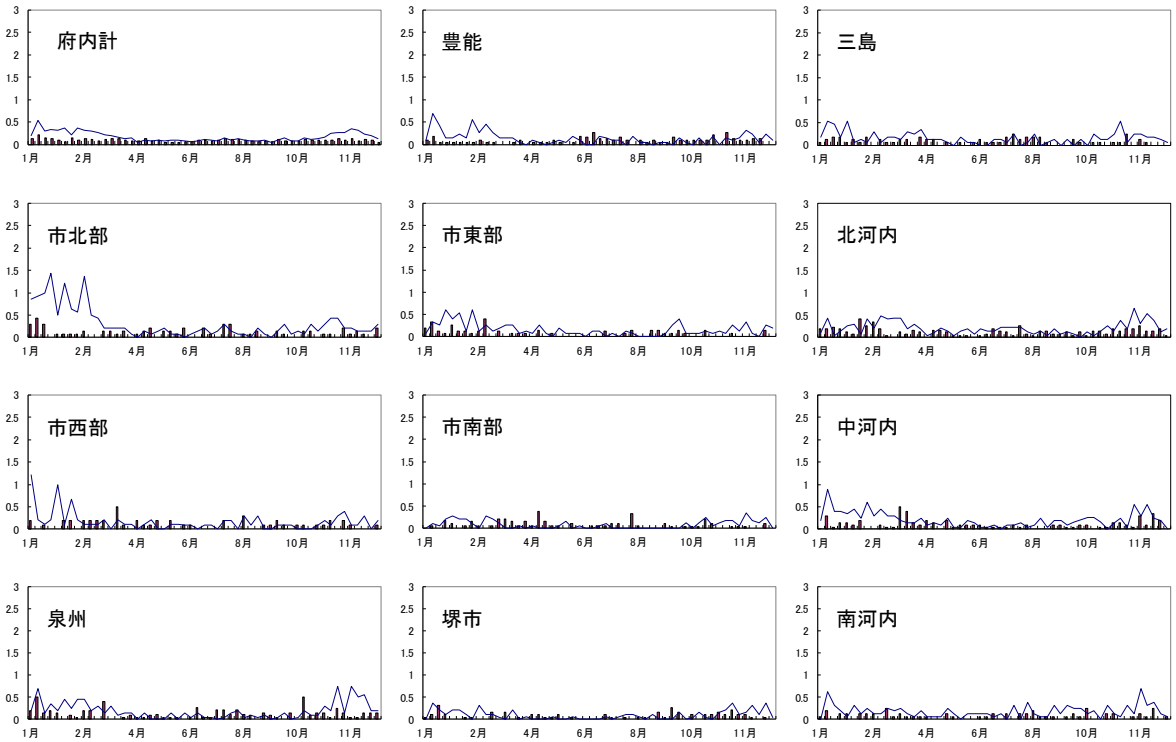
年齢別報告数（0~9 歳）は、5 歳、6 歳、4 歳、7 歳、9 歳、8 歳、1 歳・3 歳、0 歳、2 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数および全体に占める割合は、2014 年（6,691 例、68.4%）、2015 年（3,179 例、57.4%）、2016 年（2,044 例、48.0%）、2017 年（1,706 例、42.3%）、2018 年（1,346 例、34.3%）、2019 年（1,065 例、33.0%）、2020 年（582 例、32.8%）、2021 年（312 例、32.5%）であり、2014 年 10 月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降、報告数・割合とも大幅に減少している。5～9 歳の報告数は 430 例（前年 915 例）で全体の 44.8%（前年 51.5%）と減少した。10～14 歳の報告数は 165 例（前年 228 例）と減少し、割合は 17.2%（前年 12.8%）で前年よりやや増加した。15 歳以上は 53 例（5.5%）であり、割合は前年 2.9%よりやや増加した。

咽頭拭い液 2 検体中 1 件、皮膚拭い液・水疱 1 検体中 0 件、その他 2 検体中 1 件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

（文責：吉田）

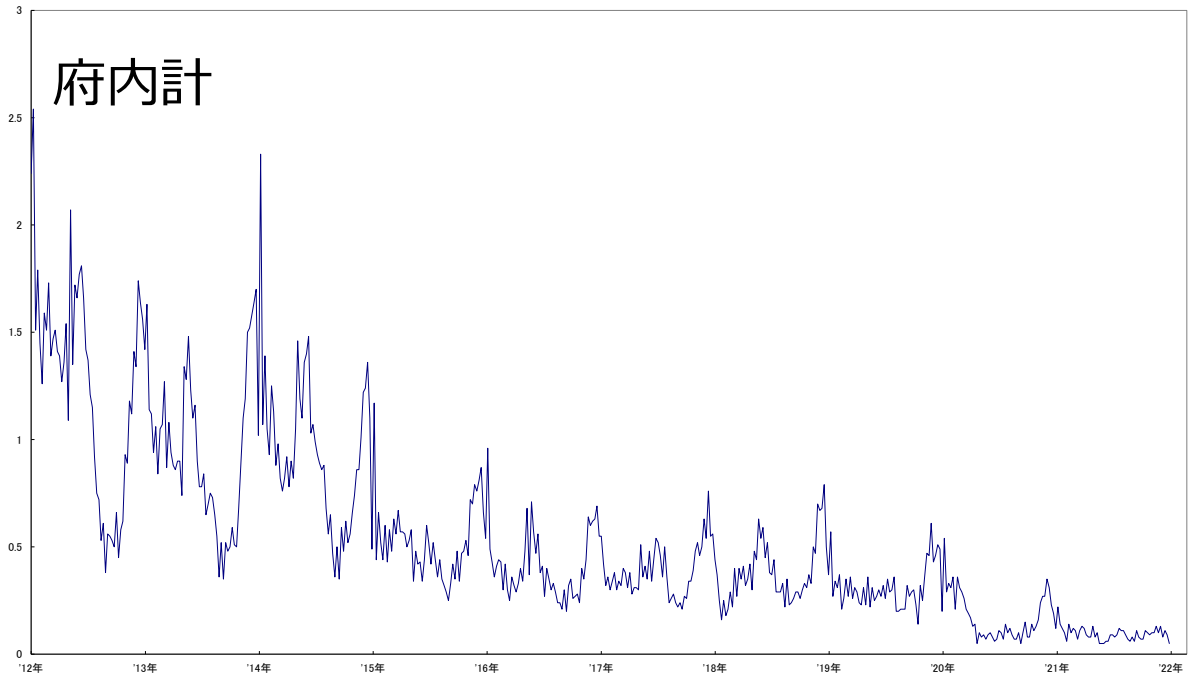
水痘

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。主な病原ウイルスは、以前はコクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス 71（EV71）であるとされてきたが、2009 年頃よりコクサッキーA6（CA6）を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それにともなって CA6 の検出割合が増加してきている。

従来、手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する 2～3 mm の水疱性発疹とされてきたが、CA6 を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は 5mm 前後と水痘を想起させるほどに大きく、上腿、殿部、上腕部、頚部等広範囲にみられることも少なくない。

新型コロナウイルス感染症の流行が見られなかった 2019 年までは、手足口病は日本国内では主に春から夏にかけて流行する感染症であり、例年 7 月の中旬か下旬が流行のピークとなり、8 月以降患者発生数は減少していく、という経過を辿っていた。一方、新型コロナウイルス感染症の国内での流行が始まった 2020 年は大阪府、国内全体共に夏期はおろか年間を通して流行期間というものがみられなかった。2021 年では、例年流行のピークを迎える 7 月はまだ流行はみられなかったが、8 月に入ると患者数の増加が見られるようになり、10 月に流行のピーク（大阪府第 44 週：定点あたり報告数 4.27、全国平均第 41 週：定点あたり報告数 1.71）を迎えた（図）。

2011 年以降は 2011 年、2013 年、2015 年と隔年で CA6 が手足口病の流行の中心となる年となっており、2021 年も国内で検出された手足口病患者由来ウイルス（総検出数 266）のうちの 192 検体（67.1%）が CA6 と最多を占めていた。

2021 年の小児科定点医療機関からの手足口病の累積報告数は、大阪府は 7,847（定点あたり累積報告数 40.04；暫定値）であり、国内全体では 77,058（定点あたり累積報告数 24.45；暫定値）であり、明確な流行が見られなかった 2020 年の累積報告数（大阪府 622、全国 18,632）を大幅に上回ったが、同様の CA6 が流行の中心となった 2019 年（大阪府 20,733、全国 402,529）、2017 年（大阪府 22,315、全国 358,764）と比較すると少なかった。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まった 2020 年以降、サーベイランスが実施されている感染症の大半がその流行について抑制的な影響を受けており、手足口病も例外ではなく、流行の規模、流行の時期共にこの 2 年間は例年とは大きく異なっていた。一方で、罹患者数が少ない期間が長期化すると、手足口病の原因ウイルスに罹患した経験のないいわゆる感受性者が小児を中心に蓄積していくこととなると思われる。予測することは非常に困難であるが、手足口病の患者発生にはこれからも注意深い観察が必要であると思われる。　（文責：安井）

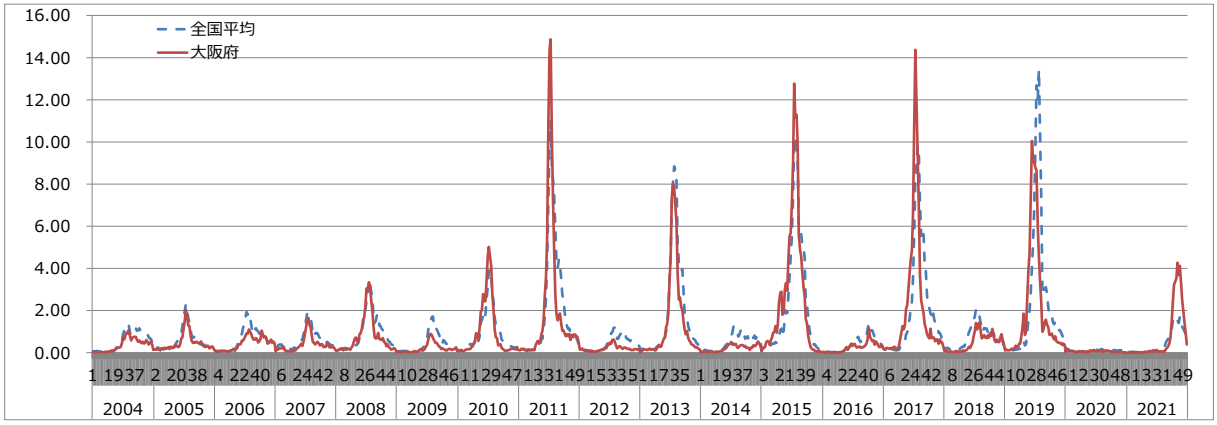
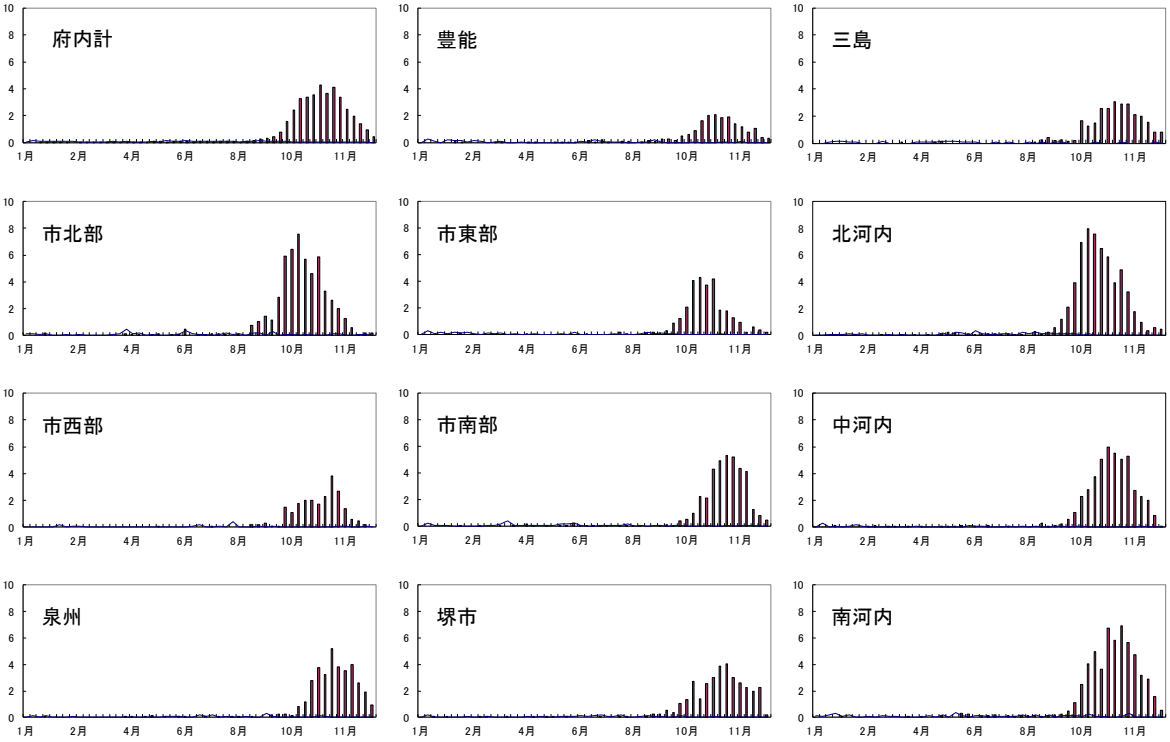


図　2004～2021 年の手足口病定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

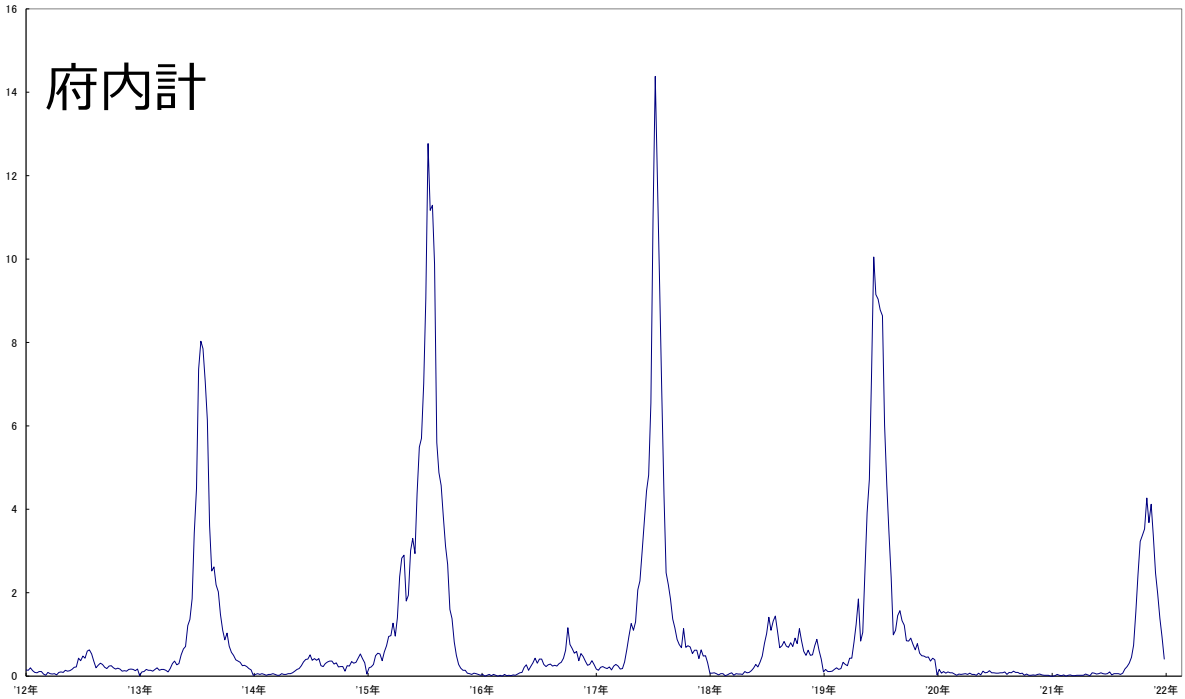
手足口病

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり手足口病報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●伝染性紅斑

2021 年の伝染性紅斑の報告数は 111 例で、前年の 754 例より 643 例、85.3%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 0.1%を占め、第 11 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.01 で、前年 0.07 より 85.7%の減少であった。全国集計では報告数 2,209 例で前年 18,247 例より 87.9%減少し、総報告数の 0.2%を占めた。定点あたり報告数は年平均 0.01 と前年 0.11 より 90.9%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 0.01 から小刻みに増減し第 10 週に 0.01 となった後急増し、第 12 週に年間最高値である 0.03 に達した。その後急減し第 18 週には年間最低値である 0.00 となったが、再び急増し第 20 週には 0.03 となった。その後小刻みに増減し第 26 週には再び 0.00 となった。その後小刻みに増減し、0.00 から 0.02 の間を推移し、第 52 週に 0.01 となった。全国集計では、第 1 週の 0.01 から第 4 週に年間最高値である 0.02 へ増加した後、第 53 週まで 0.01～0.02 の間を推移した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、11 月、10 月、9 月、1 月、2 月、3 月、5 月・8 月、6 月、4 月・7 月の順で多かった。春から夏にかけて増加する傾向は例年通りであったが、流行曲線は例年より低いレベルで推移した。

過去 10 年では、2011 年、2015 年、2019 年とおよそ 4 年毎に比較的大規模な流行がおこっている。2019 年の年間最高値 1.30 は過去 10 年間でも最高値であったが、本年の定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった 1999 年以降の 22 年間で最も低値であった。

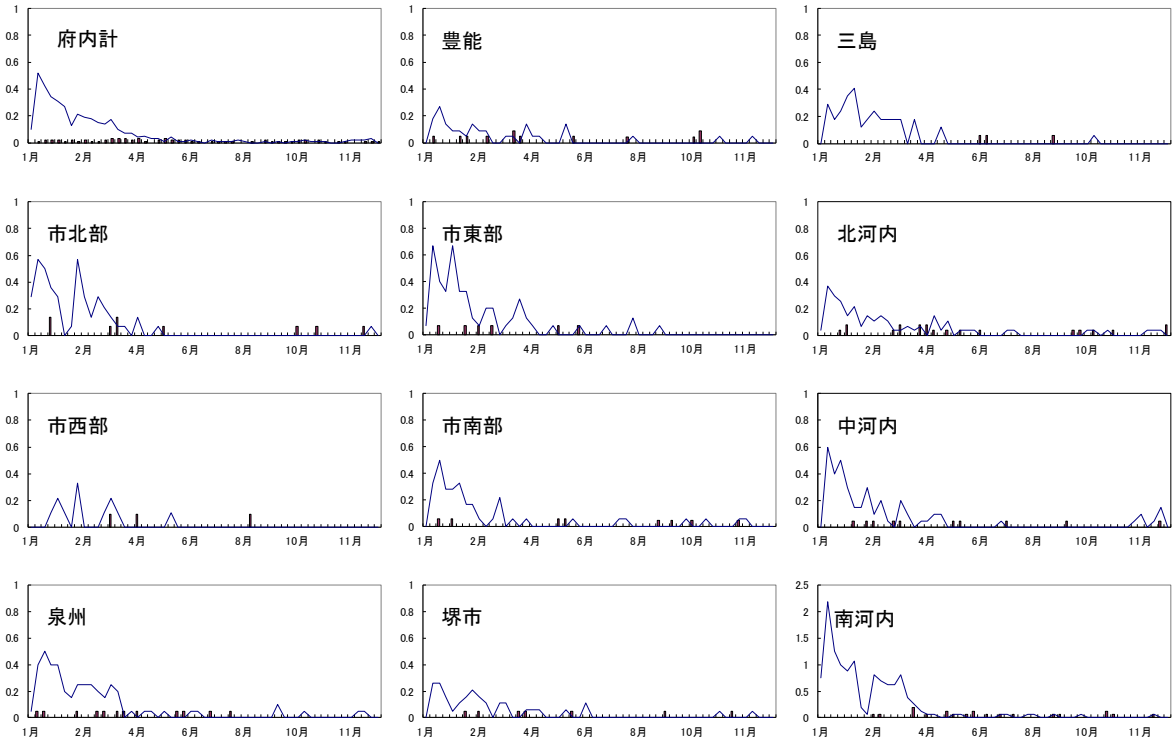
ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 0.03、③北河内 0.01、⑧大阪市北部 0.01、⑦泉州 0.01、①豊能 0.01、④中河内 0.01、⑪大阪市南部 0.01、⑩大阪市東部 0.01、⑥堺市 0.04、⑨大阪市西部 0.01、②三島 0.00 の順であった。

年齢別報告数（0~9 歳）は、1 歳、4 歳、0 歳・3 歳、2 歳・5 歳、6 歳・7 歳、8 歳・9 歳の順に多かった。5～9 歳の報告数は 35 例で全体の 31.5%を占めた。0~4 歳、10～14 歳の報告数と割合はそれぞれ 71 例（64.0%）、5 例（4.5%）で、15 歳以上の報告は認めなかった。

（文責：吉田）

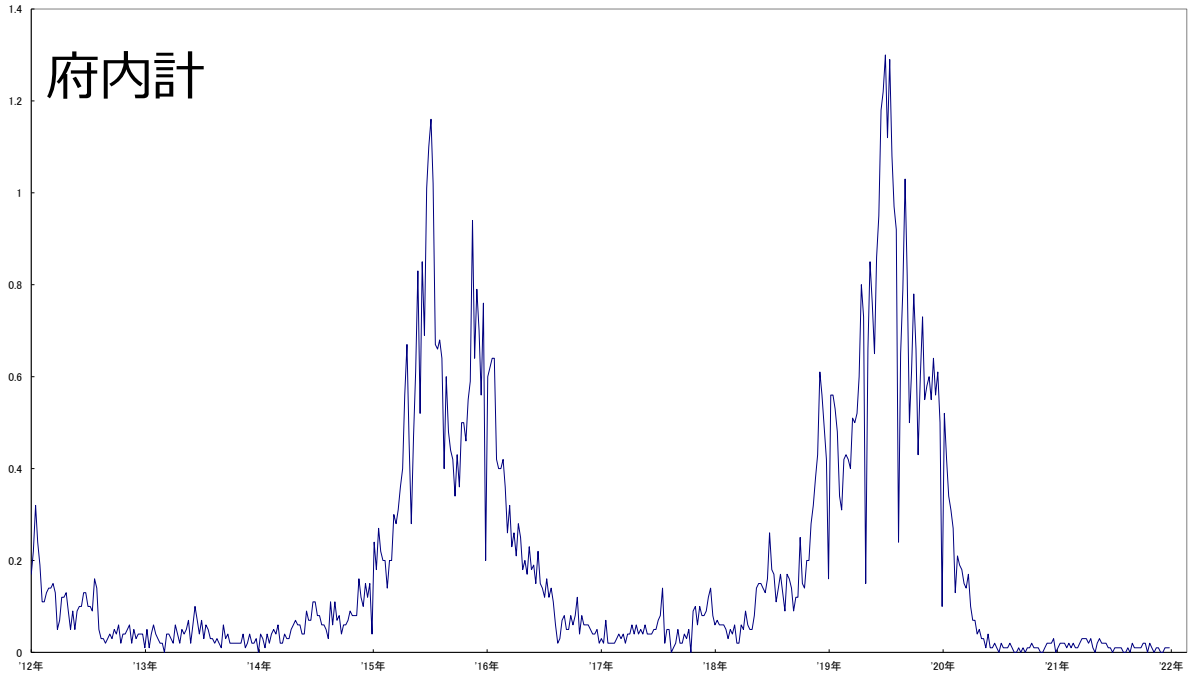
伝染性紅斑

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり伝染性紅斑報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●突発性発しん

2021 年の突発性発しんの患者報告数は 3,307 例で、前年比 13.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.32 で、順位は第 5 位であった。

全国集計では 60,172 例の報告で、前年比%8.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 5.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.37 で、順位は第 5 位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、4 月、6 月、7 月で 1 標準偏差以上増加し、8 月に 1 標準偏差以上減少、12 月に 2 標準偏差以上減少した。季節性はなかった。年間最低値は第 52 週（12 月）の 0.18、年間最高値は第 16 週（4 月）の 0.49 であった。

全国集計では、4 月、5 月、6 月で 1 標準偏差以上増加し、8 月、12 月で 1 標準偏差以上減少した。季節性はなかった。年間最低値は第 52 週（12 月）の 0.18、年間最高値は第 16 週・第 17 週（4 月）の 0.48 であった。

本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、大阪では 12 月に 2 標準偏差以上の減少を認めた。

年齢別患者報告数は、1 歳の 1,757 例（53.1%）が最も多く、0 歳が 1,039 例（31.4%）、2 歳が 380 例（11.5%）であり、0 歳と 1 歳で全体の 84.5%、2 歳を含めると 96.0%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（568 例）、④中河内（461 例）、⑤南河内（380 例）、①豊能（363 例）、⑦泉州（362 例）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位5ブロックは、⑤南河内（0.46）、④中河内（0.44）、③北河内（0.42）、⑧大阪市北部（0.36）、⑦泉州（0.35）の順、下位 5 ブロックは、⑥堺市（0.18）、⑩大阪市東部（0.19）、②三島（0.22）、⑨大阪市西部（0.23）⑪大阪市南部（0.29）の順で、本年も昨年と同様に最上位と最下位では約 2 倍以上の差があった。

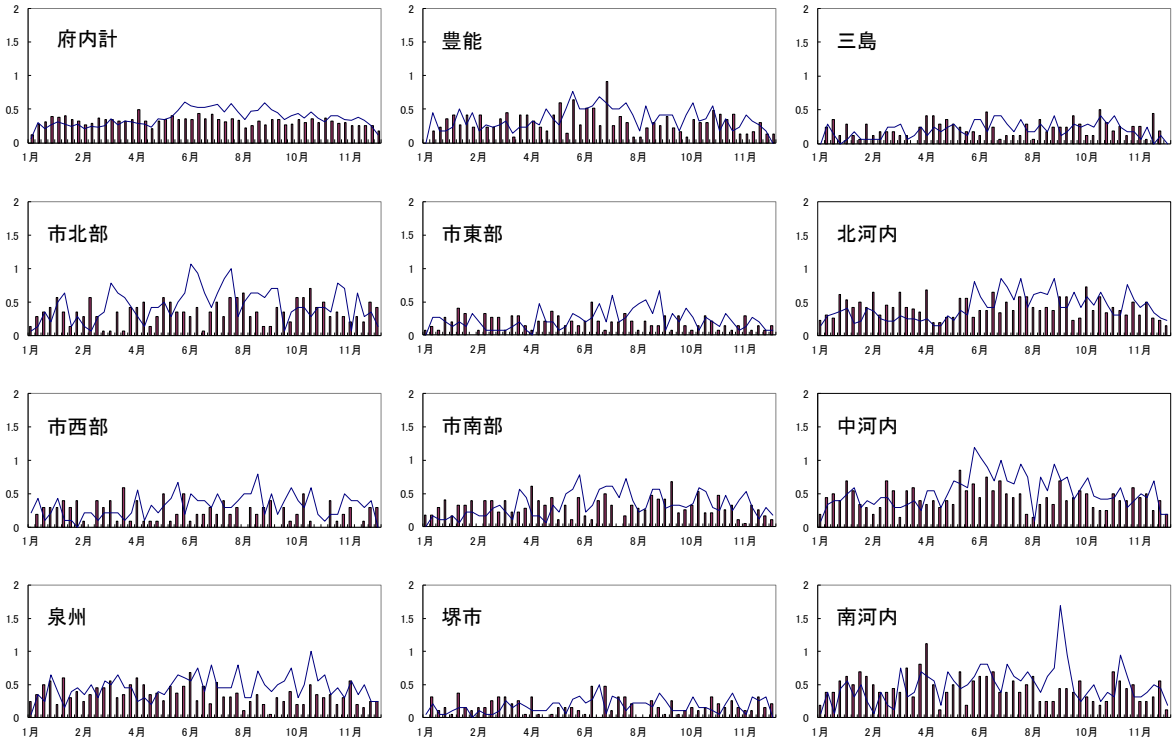
本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられている。例年上位と下位では差があるが、2021 年は標準偏差の 2 倍以内であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 5 検体あり、2 検体より HHV6B が検出されている。

（文責：冨吉）

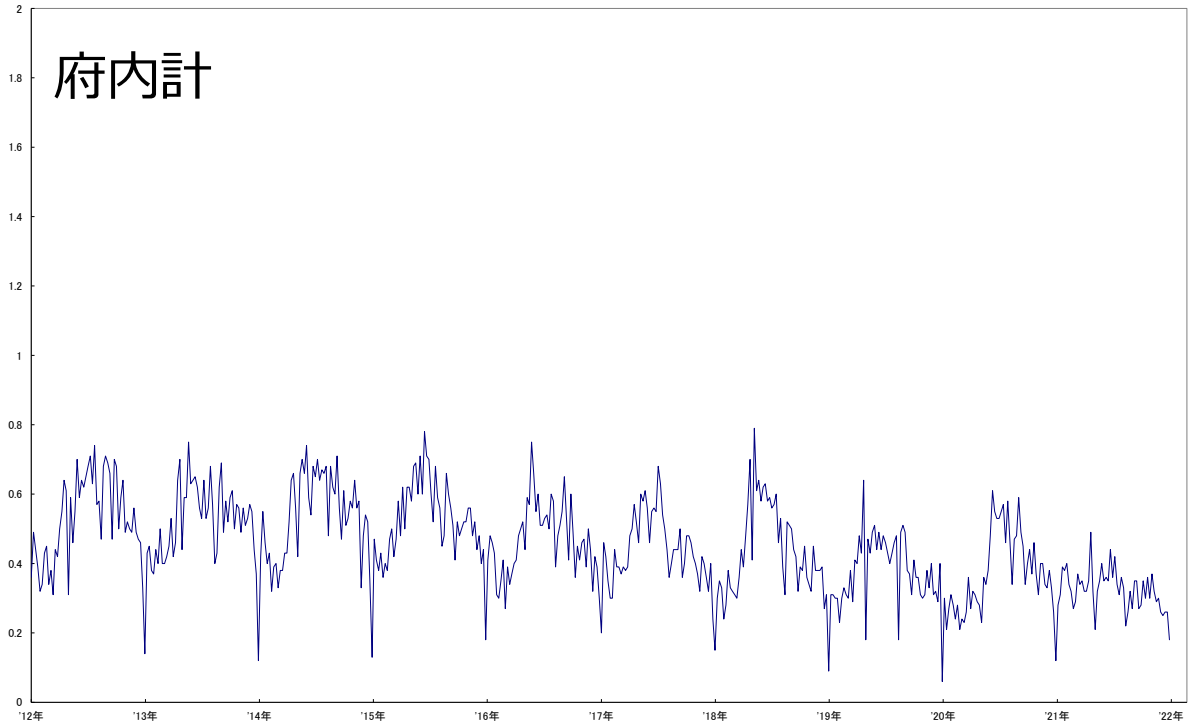
突発性発しん

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり突発性発しん報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●ヘルパンギーナ

本疾患は、大阪府では、6-7 月ごろピークを迎える夏型感染症である。過去、2014 年（9,704 例）、2016 年（8,563 例）と隔年で流行したが、2017 年以降、2017 年（4,967 例）、2018 年（5,293 例）、2019 年（5,756 例）と推移し、2020 年は、新しい生活様式への変化（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）、および、3 月 2 日に小中学校・義務教育学校・高校の休校措置により、1,554 例と減少した。2021 年は、2,517 例で、前年比 62%の増加であるが、コロナ禍前と比較すると、依然、少ない状態が続いている。2021 年は、大阪府における小児科定点あたり報告数の年平均は 0.25 で、順位は 6 位であった。日本全国における小児科定点あたり報告数の年平均は 0.23 で、順位は 6 位である。

週別（月別）の定点あたり報告数の推移では、第 1 週から第 21 週まで 0.01～0.05 で推移していたが、8 月第 3 週（第 33 週）に 0.09 となり増加に転じていた。10 月第 4 週（第 43 週）に、1.24 となり最大値に到達した。その後、11 月第 3 週（第 46 週）には 1.00 を下まわり、収束に向かっている。全国的には、第 1 週から第 19 週まで 0.01～0.05 で推移していたが、6 月第 2 週（第 24 週）に 0.11 となり、ゆるやかに増加していた。10 月第 2・3 週（第 41・42 週）に、0.71 となり最大値に到達した。その後、1.00 を超えることはなく、減少に転じている。

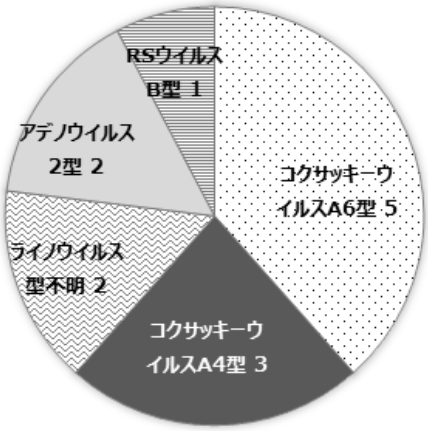
大阪府において、年齢別患者発生数では、1 歳　868 例（34.5%）、2 歳　817 例（32.5%）、3 歳　280 例（11.1%）、0 歳　180 例（7.2%）、4 歳　118 例（4.7%）の順で、0~4 歳で全体の 89.9%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部　0.57、④中河内　0.31、⑦泉州　0.31、⑤南河内　0.29、③北河内　0.25、の順であった。ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部　4.50（第 41 週　10 月）、⑤南河内　2.56（第 42 週　10 月）、⑦泉州　2.20（第 46 週　11 月）、④中河内　2.05（第 41 週　10 月）、③北河内　1.39（第 42 週　10 月）の順で、警報レベル開始基準値 6.00 を上回ったブロックはなかった。平年、報告数は、6、7 月に最大になることが多いが、2021 年は例年と異なり、10、11 月であった。2021 年、ヘルパンギーナと同じエンテロウイルス感染症である手足口病も、例年の流行時期が異なり、10、11 月にかけて、報告数の増加が認められており、同じような流行パターンを示していた。

病原体検出の陽性率は 43.3%であった。多い順に、コクサッキーウイルス A6 型（5）、コクサッキーウイルス A4 型（3）、ライノウイルス　型不明（2）、アデノウイルス 2 型（2）、RS ウイルス B 型（1）などが検出された。

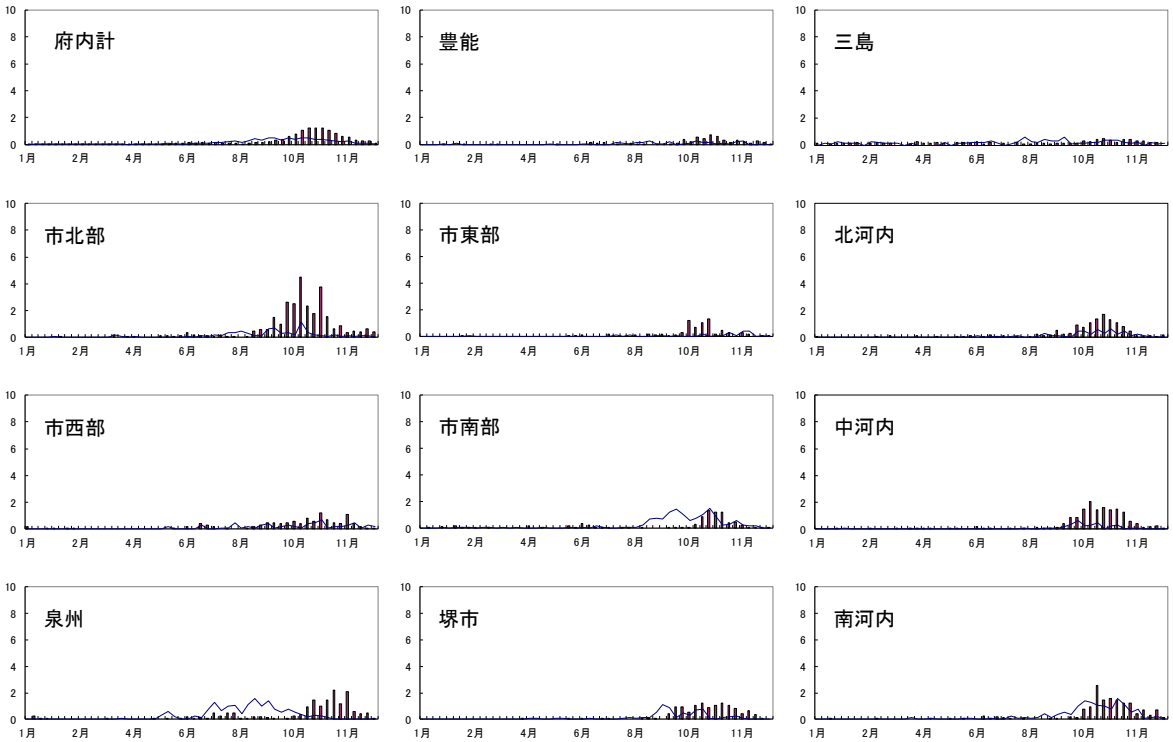
（文責：本村）

図 大阪府のヘルパンギーナ患者由来ウイルスの検出状況（2021 年、総検出数(13)）



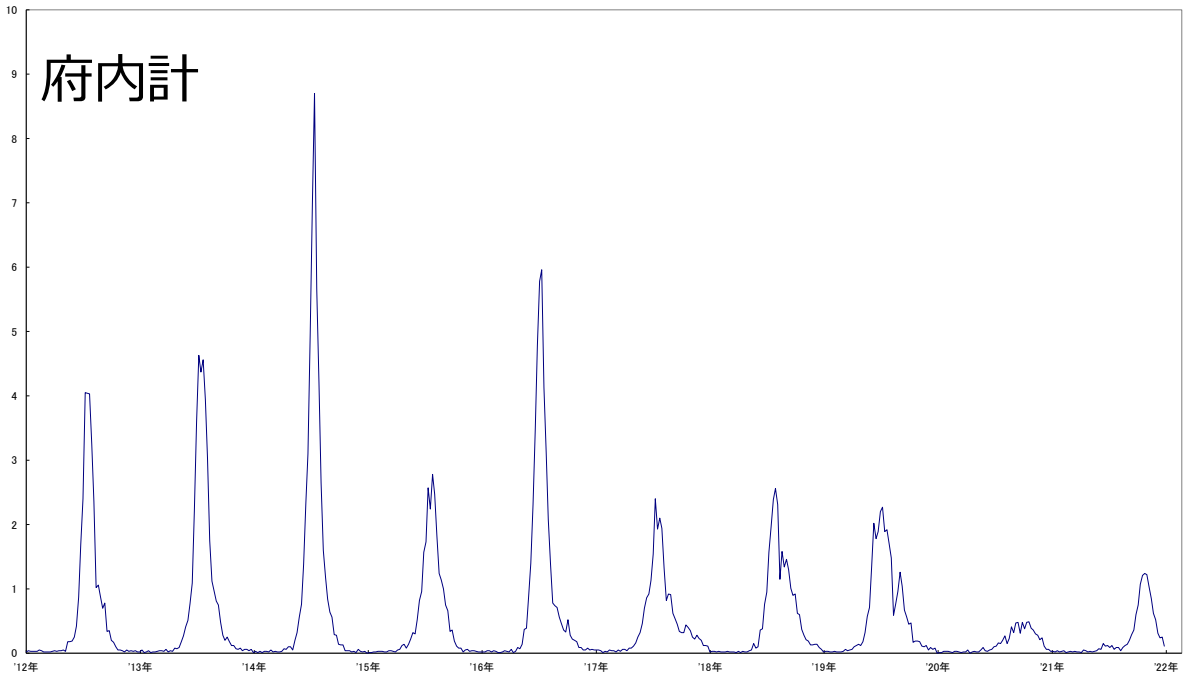
ヘルパンギーナ

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●流行性耳下腺炎

2021 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 479 例で、前年比 14.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.05 で、順位は第 10 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016（平成 28）年の 1.39 から 5 年連続して減少した。

全国集計では 7,324 例の報告で、前年比 9.3%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.7%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.04 で、順位は第 10 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 24 週（6 月）の 0.14、年間最低値は第 6 週（2 月）、第 47 週（11 月）、第 52 週（12 月）の 0.01 であった。

全国集計でも、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 27 週（7 月）、第 28 週（7 月）の 0.08、年間最低値は第 8 週（2 月）、第 52 週（12 月）の 0.02 であった。

年齢別患者報告数は、4 歳の 71 例が最も多く、以下 5 歳 70 例、6 歳 62 例、7 歳 51 例、3 歳 47 例、8 歳 43 例と続き、3 歳から 7 歳で全体の 71.8%を占めた。

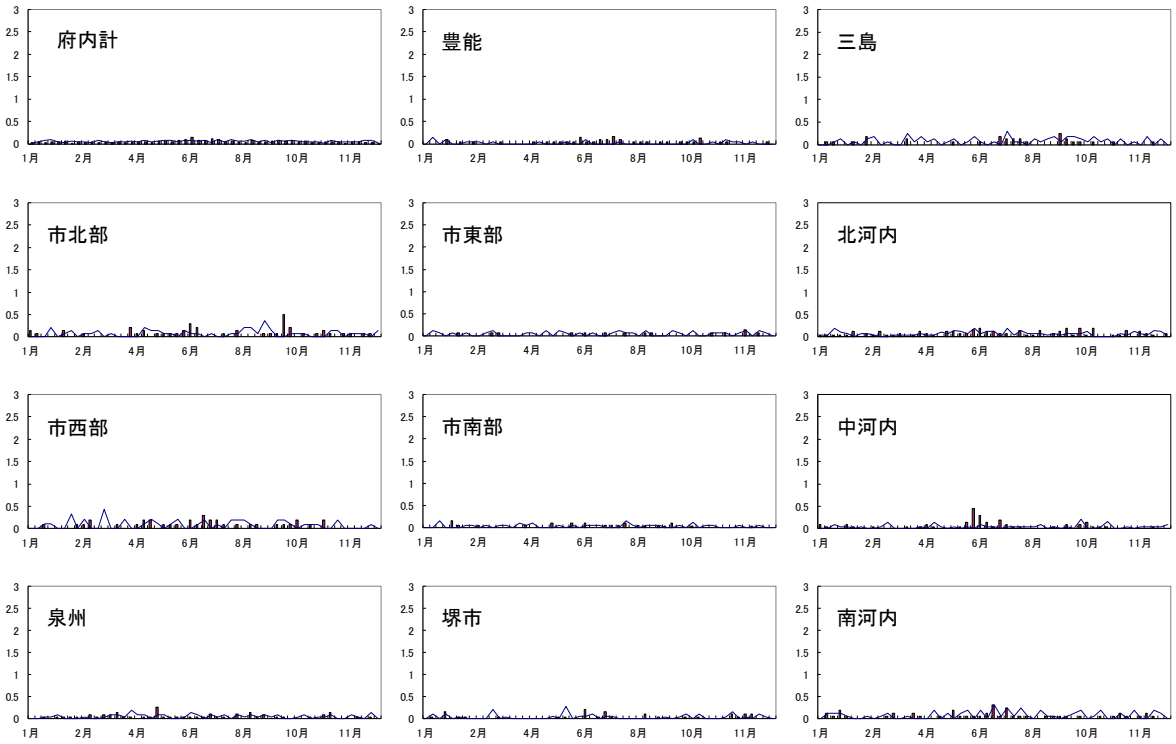
ブロック別・週別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（99 例）、④中河内（53 例）、⑦泉州（53 例）、⑤南河内（50 例）、⑧大阪市北部（48 例）の順であった。
ブロック別･定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは､③北河内(0.07)､⑧大阪市北部(0.07)､⑨大阪市西部（0.07）、⑤南河内（0.06）、④中河内（0.05）、⑦泉州（0.05）の順であった。
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部（第 38 週、0.50）④中河内（第 23 週、0.45）、⑤南河内（第 26 週、0.31）、④中河内（第 24 週、0.30）、⑨大阪市西部（第 26 週、0.30）の順であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 4 検体あったが、陽性検体はなかった。

（文責：冨吉）

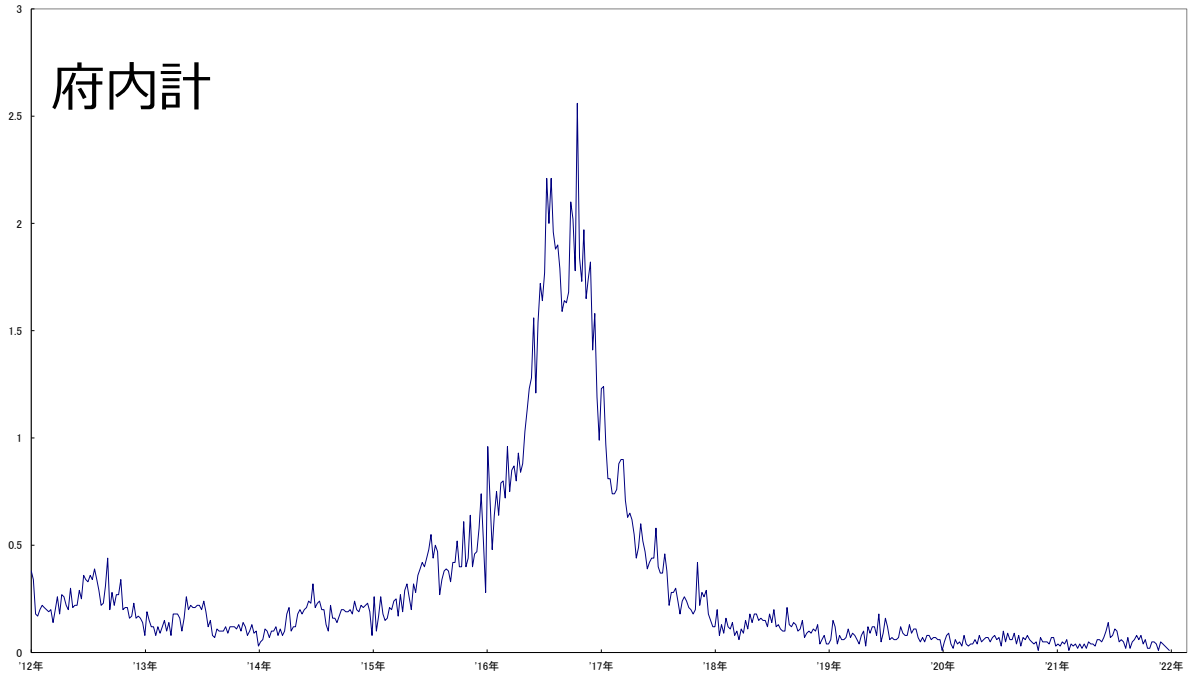
流行性耳下腺炎

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり流行性耳下腺炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

３）眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2021 年（令和 3 年）の急性出血性結膜炎の報告数は 15 例で、前年より 4 例、36.4%増であった。眼科医療機関における定点あたりの報告数は 0.0１であった。

府内合計による週別定点あたり報告数は最高が第 40 週の 0.06 で、続いて第 48 週の 0.04、以下第 3 週、第 24 週、第 25 週、第 30 週、第 31 週、第 32 週、第 35 週、第 38 週、第 41 週、第 45 週、第 47 週、第 52 週の 0.02 が続いた。報告の無い週が 38 週あった。

ブロック別の年間平均で週別定点あたり報告数が高かったのは、③北河内、④中河内、⑤南河内、⑦泉州、⑧大阪市北部、⑨大阪市西部の 0.0１で、続いて⑩大阪市南部の 0.00 であった。他の４ブロックからは報告が無かった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に成人の報告が多く、20 歳以上の報告数が 15 例と、全体の 100.0%を占めた。

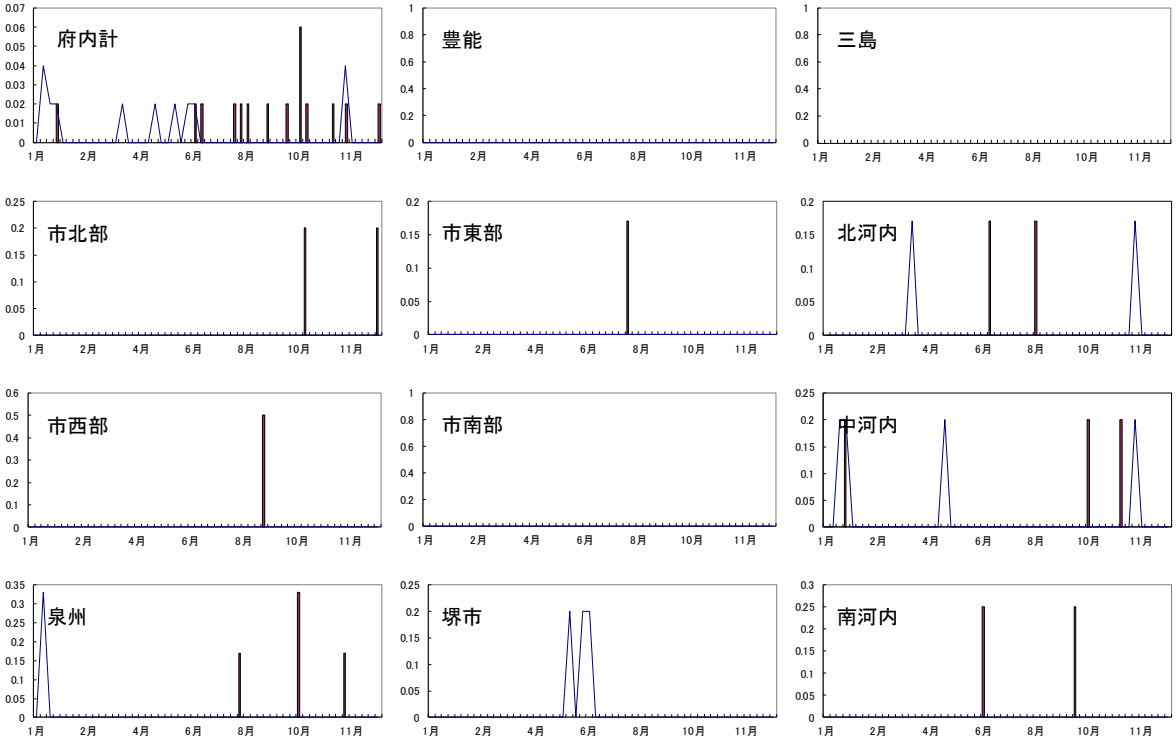
最近 6 年間の眼科医療機関における定点あたりの急性出血性結膜炎報告数

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
大阪府	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	0.01
全　国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00

（文責　宮浦）

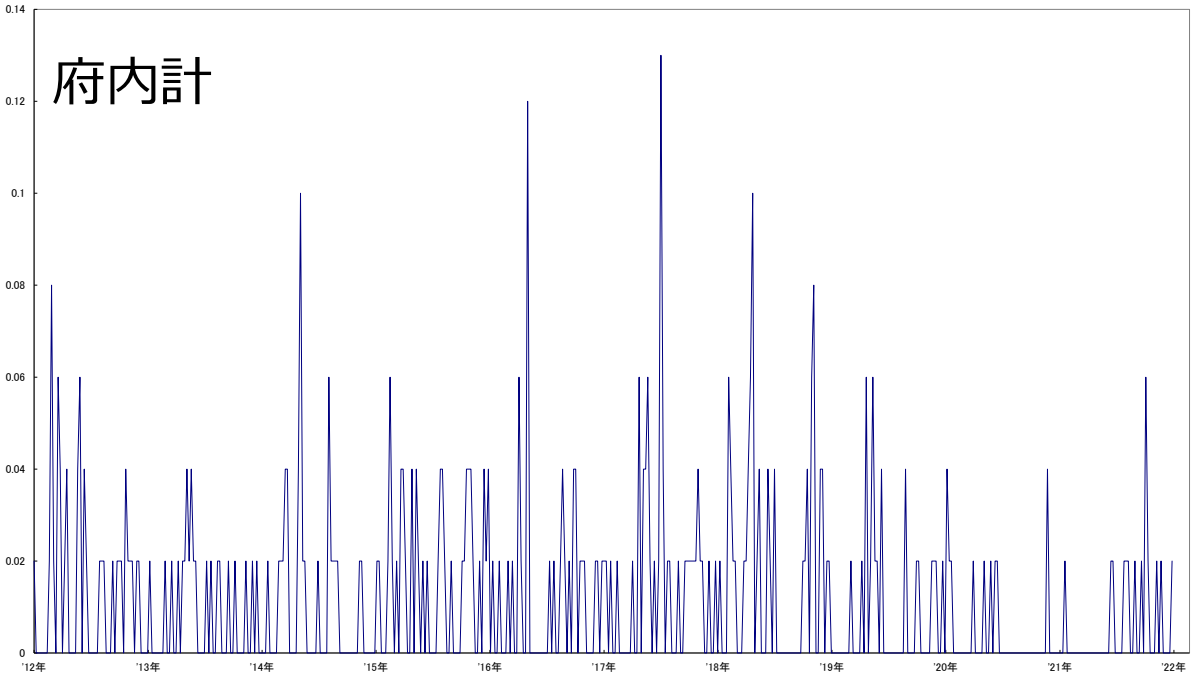
急性出血性結膜炎

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり急性出血性結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●流行性角結膜炎

2021 年（令和 3 年）の流行性角結膜炎の報告数は 282 例で、前年の 21.4%減となり、眼科医療機関における定点あたり報告数は 0.10 であった。

府内合計による週別定点あたりの報告数で最も多かったのは、第 34 週の 0.31 で、以下第 5 週の 0.23、第 23 週の 0.21 が続きいた。前年同様に定点あたりの報告数が 1.0 を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされているが、発生件が少ないとその傾向は減弱する。本年は、6 月（第 23 週から第 26 週までの 4 週）に全体の 10.6%、8 月（第 31 週から第 35 週までの 5 週）に全体の 11.0%の報告があった。

ブロック別で週別定点あたり報告数が最も多かったのは、⑦泉州の第 34 週の 0.83 で、次いで④中河内の第 21 週の 0.80、さらに③北河内の第 38 週、⑩大阪市東部の第 39 週と第 45 週の 0.67 が続いた。

ブロック別の年間平均で週別定点あたり報告数が最も多かったのは、④中河内と⑩大阪市東部の 0.15 で、次いで③北河内の 0.14、⑦泉州と⑧大阪市北部の 0.1 の順であった。最も低かったのは、⑪大阪市南部の 0.05 であった。

年齢別では、例年 20 才以上の報告数が多く、本年も 233 例と全体の 82.6%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

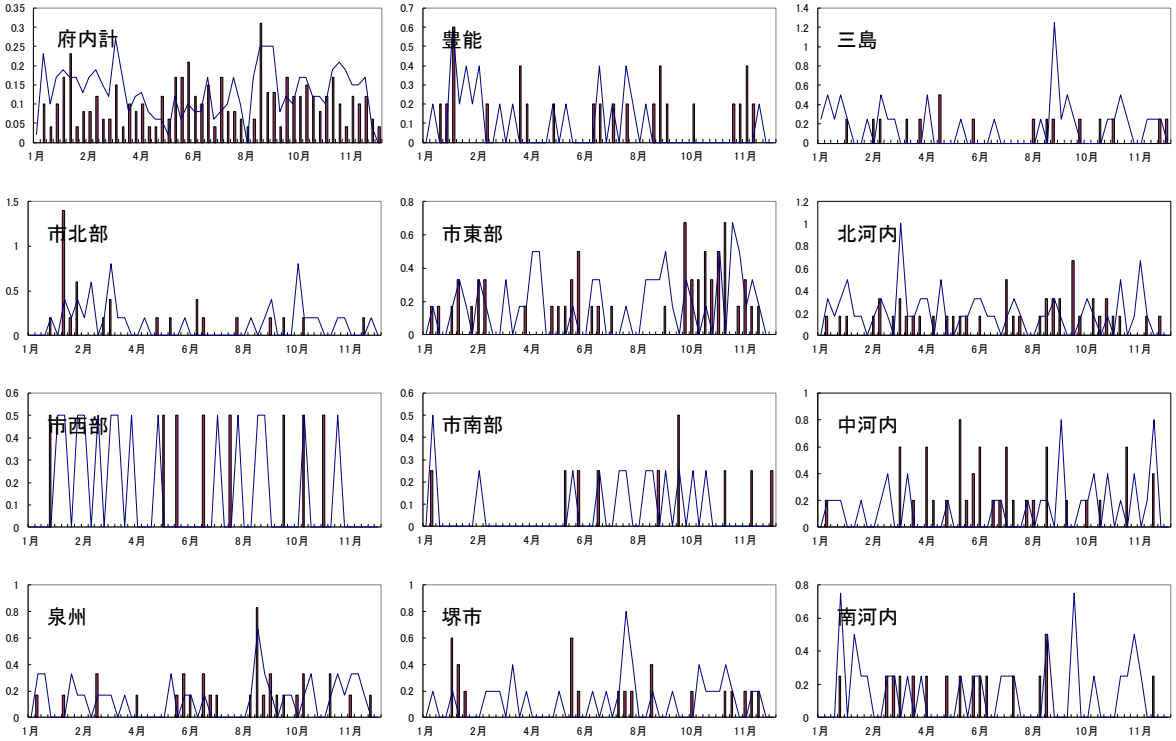
最近 6 年間の眼科医療機関における定点あたりの流行性角結膜炎報告数

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
大阪府	0.54	0.41	0.48	0.32	0.13	0.10
全　国	0.73	0.74	0.85	0.64	0.25	0.19

（文責　宮浦）

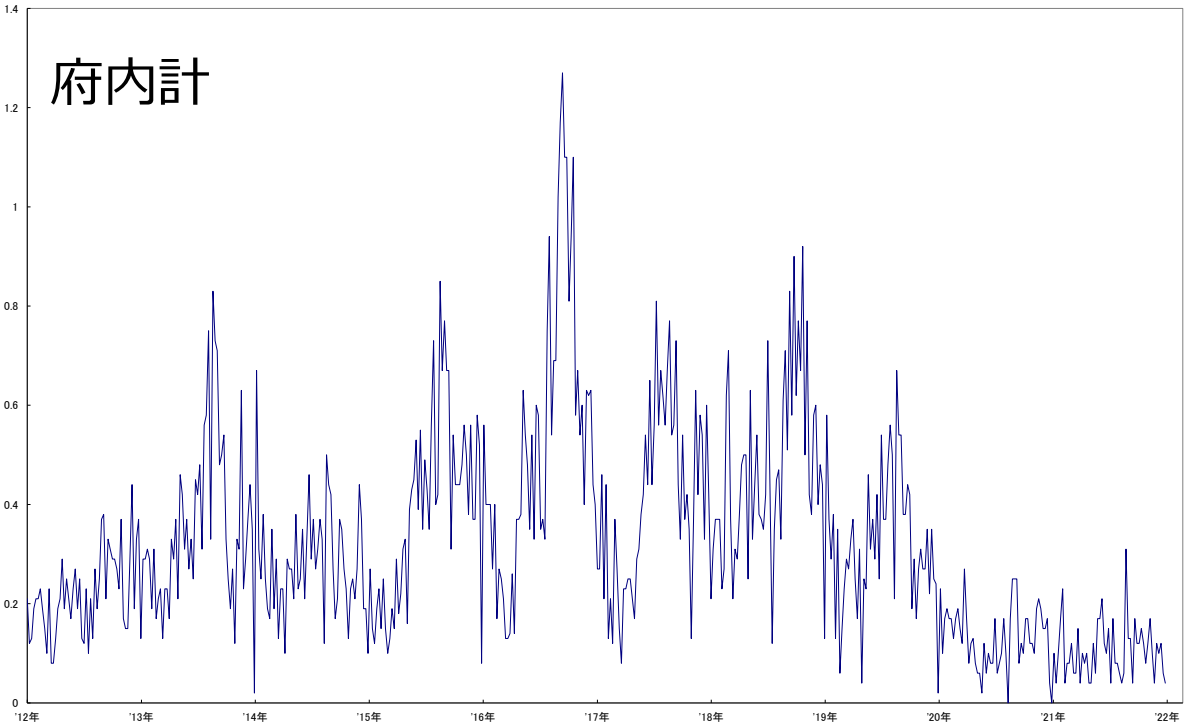
流行性角結膜炎

線（2020 年第 1 週～第 53 週）
棒（2021 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2012 年 1 週～2021 年 52 週）



定点あたり流行性角結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

４）基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5 類感染症の中の細菌性髄膜炎（2013 年 4 月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014 年 9 月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎 （オウム病を除く）、及び、2013 年 10 月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の 5 疾患である。

表　基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック	（年）	(1)豊能	(2)三島	(3)北河内	(4)中河内	(5)南河内	(6)堺	(7)泉州	大阪市	合計	定点あたり大阪	定点あたり全国	定点数(大阪)
細菌性髄膜炎	2016年	1	5	1	2	3	4	11	2	29	1.71	1.03	17
	2017年	1	2		1	4	5	1	3	18		1.10	17
	2018年	1	4		1	5	5	2	1	19	1.12	1.06	17
	2019年	2	7			1		8		18	1.10	0.96	16
	2020年	1	2	2			4		1	10	0.61	0.85	16
	2021年		4				5		1	10	0.61	0.77	16
無菌性髄膜炎	2016年	15	6	1		15	19		3	59	3.47	2.89	17
	2017年	5	4	1		5	27		2	44	2.59	2.00	17
	2018年	5			1	5	14	1		26	2.75	1.68	17
	2019年	7	1		2		20	1		31	1.90	1.71	16
	2020年	5	3			1	5		1	15	0.92	0.95	16
	2021年	4			2	4	6			16	0.98	0.96	16
マイコプラズマ肺炎	2016年	41	222	100	73	40	225	169	231	1101	64.76	41.34	17
	2017年	4	34	30	33	21	58	77	38	295	17.35	17.53	17
	2018年	6	12	39	8	5	30	53	12	165	9.71	11.66	17
	2019年	6	24	30	13	2	31	10	13	129	7.91	12.68	16
	2020年	14	20	12	6	1	24	1	15	93	5.71	7.36	16
	2021年	1			2		1		1	5	0.31	1.39	16
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	2016年	1					3			4	0.24	0.74	17
	2017年			1			2			3	0.19	0.56	17
	2018年	1					1			2	0.12	0.30	17
	2019年	1								1	0.06	0.13	16
	2020年						1			1	0.06	0.12	16
	2021年										0.00	0.05	16
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	2016年	36	57	20	22	74	86	34	77	406	23.88	11.04	17
	2017年	24	37	4	6	65	57	6	38	237	14.81	10.43	17
	2018年	18	15	5	16	82	42	18	43	239	14.06	6.74	17
	2019年	52	48	9	20	49	55	85	64	382	23.44	9.82	16
	2020年		1			1	4			6	0.37	0.52	16
	2021年	1	1						3	5	0.31	0.19	16

報告数が0の場合には空白としている

表には 2016 年～2021 年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は 16 ある。1999 年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。また、2020 年～2021 年は新型コロナウイルス感染症の流行のため、感染症の疫学に大きな影響がみられた。

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎
（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

10 例が報告され、定点あたり 0.61 である。3 基幹定点から各 5 例、4 例、1 例が報告された。年齢は 0～1 ヵ月 3 例、60～69 歳 2 例、70～79 歳 4 例、90 歳 1 例であった。原因菌には肺炎桿菌 1 例、黄色ブドウ球菌 1 例、未記載・培養陰性 8 例であった。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は 5 類全数報告を参照されたい。2020 年は細菌性髄膜炎に含まれるべきか議論のある肺炎マイコプラズマが 10 例中 3 例含まれていたが、本年はなかった。

全国集計では 2021 年は 370 例の報告があり、定点あたり 0.77、2020 年は定点あたり 0.85 であった。原因菌には B 群レンサ球菌 8.1%、黄色ブドウ球菌 6.8%、リステリア菌 2.7%、肺炎桿菌 1.9%などが多い。肺炎球菌、クリプトコッカスの髄膜炎、単純ヘルペスウイルスなどのウイルス、などは含まれるべきではないが、合わせて 4.1%あり、原因菌不明の症例は 57.6%であった。髄液中の微生物のマルチプレックス遺伝子検査を導入するなど、原因菌検索の改善が必要である。

●無菌性髄膜炎

2021 年は 4 基幹定点から各基幹定点 2～6 例、合計 16 例が報告され、定点あたり 0.98 で 2020 年は 15 例、定点あたり 0.92 であった。年齢は 1 ヵ月 2 例、10～19 歳 5 例、20～19 歳 2 例、30～19 歳 5 例、40～49 歳 2 例、性別は男女が 6:10 であった。月別では 7 月、9 月が 0 で、他の月には 1～3 例であった。原因病原体は単純ヘルペスウイルス(HSV)2 例、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）1 例、陰性・記載なし 13 例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では無菌性髄膜炎 69 症例の髄液や便・咽頭などからのべ 10 株が検出され、エコーウイルス 6 が 2 株、エコーウイルス 9 が 1 株、ヒトパレコウイルス(HPeV)が 3 株、VZV1 株などである。また、疾患名その他の髄液で HPeV3 株が検出されている。

全国集計では 2021 年は 459 例、定点あたり 0.96、2020 年は定点あたり 0.95 であった。原因病原体は 82.8%陰性または記載なし、VZV8.5%、HSV3.1%が多い。ムンプスウイルス、肺炎マイコプラズマは 1%未満であった。国立感染症研究所の IASR のデータをみると 2021 年のエンテロウイルスではエコー6 31 株 HPeV1 89 株 HPeV3 16 株などであった。

●マイコプラズマ肺炎

5 例のみ報告があり定点あたり 0.31 で、2020 年の定点あたり 5.81 に比し 95%の減少であった。年齢は 1～4 歳 2 例、20-29 歳 2 例、90～99 歳 1 例、検査方法は抗体価によるもの 4 例、抗原検査 1 例で、LAMP 法などの特異性の高い遺伝子検査陽性例はなかった。大阪では本疾患は 2006 年、2011 年、2016 年をピークとする流行を繰り返しており、2020 年は増加することが予測されていたが、2020 年 5 月から激減し、呼吸器病原体の感染防御行動が奏功したものと思われる。年齢分布は（図 1-1）と 2021 年の府内の週別報告数および全国の週別報告数を（図 1-2）に示した。

全国集計では 2021 年は定点あたり 1.39 で、2020 年の 7.36 に比し、81.1%減であった。

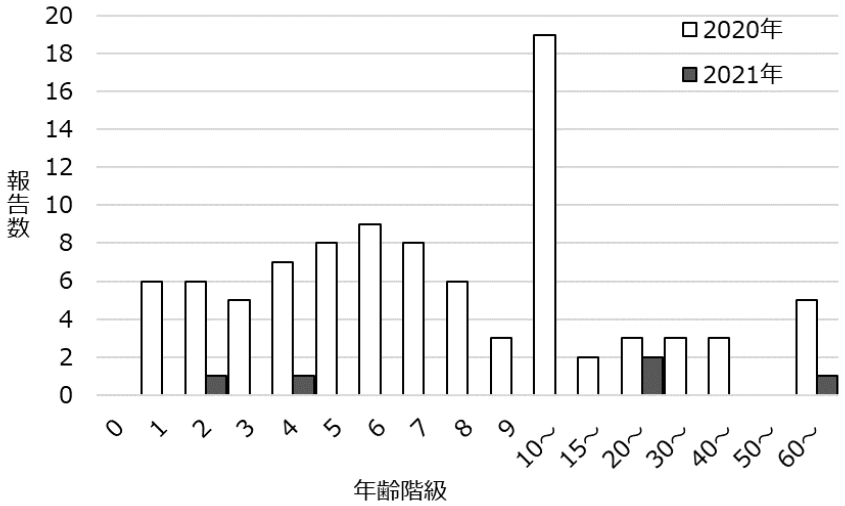


図 1-1　マイコプラズマ肺炎年齢別報告数

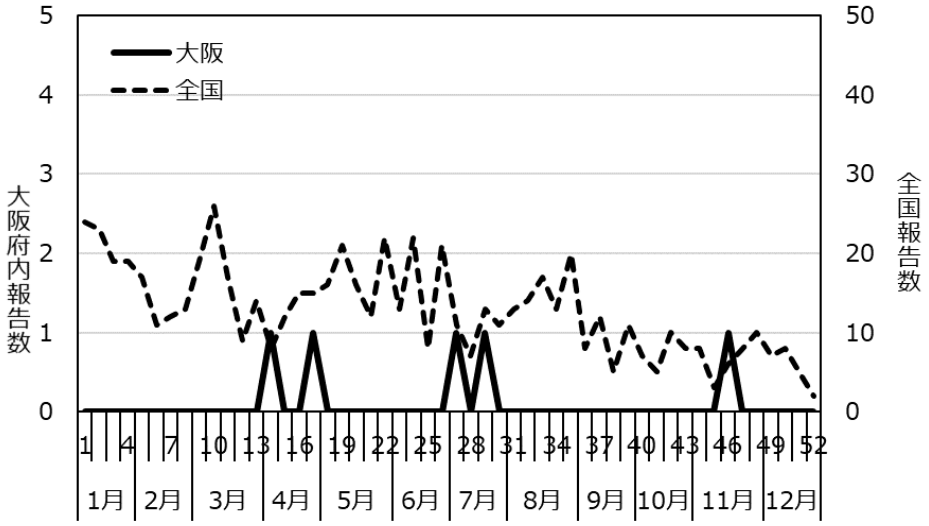


図 1-2　マイコプラズマ肺炎週別報告数

●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス（*Chlamydia trachomatis*）による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア(*Chlamydophila* (*Chlamydia*) *pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病(*Chlamydophila* (*Chlamydia*) *psittaci*)は 4 類全数報告感染症である。

2021 年は報告がなかった。2020 年は 2 歳児の 1 例のみで、核酸検出によるものであった。全国集計では 3 例のみ報告であった。新型コロナウイルス感染症の流行後に、Filmarray®など多種類の呼吸器感染症のウイルス、細菌の核酸検出が可能な診断機器の普及がすすんでおり、抗体価による方法よりも正確な診断が期待できる。

●感染性胃腸炎
（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

5 例のみの報告で、定点あたり 0.31 で、2020 年と同様に少数例のみであった。週別報告数は 51～53 週に⑥堺から 3 例の報告があった。年齢は 1 歳、2 歳が各 3 例であった。全国では定点あたり 0.19 と少数の報告であった。

（文責：塩見）

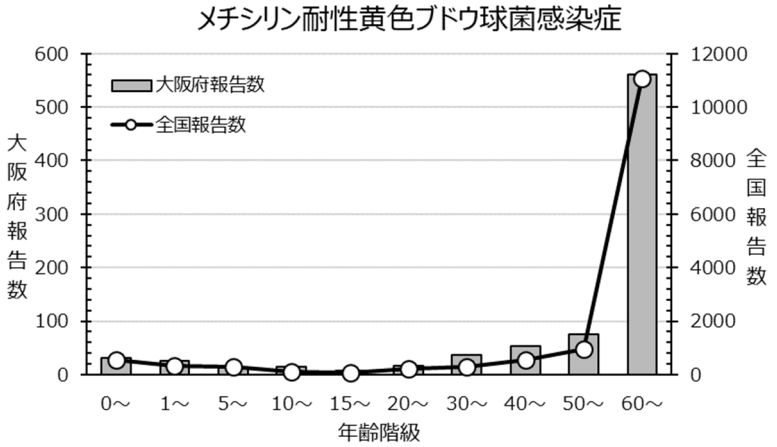
5）基幹定点報告（月報）対象疾患

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の 3 疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は第 52 週時点で 16 であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

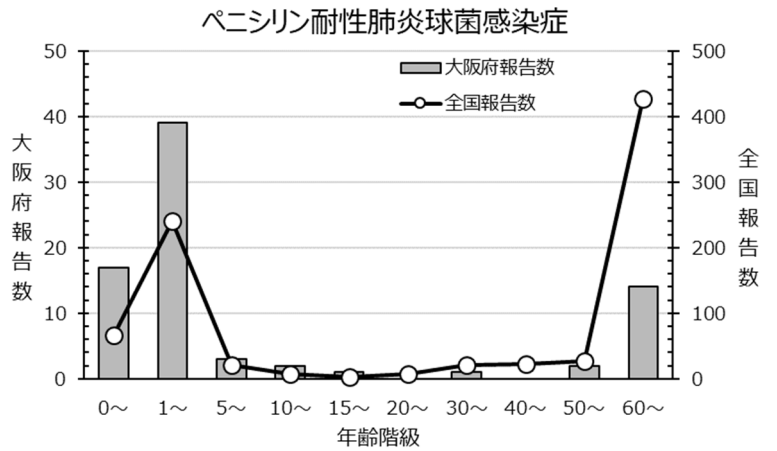
⑩大阪市東部を除く 10 ブロックから前年比 1.0%減の 834 例の報告があり、定点あたり報告数は 52.13 であった。年齢別構成は 0 歳児 32 例、1～4 歳児 26 例、5～9 歳児 12 例、10～14 歳 15 例、15～19 歳 7 例、20～29 歳 16 例、30～39 歳 36 例、40～49 歳 54 例、50～59 歳 75 例、**60 歳以上 561 例であり、60 歳以上が 67.3%**を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

全国情報（NESID 年報　令和 4 年 3 月 5 日現在）では前年比 2.9%減の 14,504 例の報告があり、定点あたり報告数は 30.28 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 11,078 例と 76.4%を占めた。大阪府内の報告数は全国の 5.8%であった。



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑤南河内 37 例、⑦泉州 32 例、①豊能 5 例、⑥堺市 3 例、③北河内 1 例、⑨大阪市西部 1 例の 6 ブロックから、前年比 19.7%増の 79 例の報告があり、定点あたり報告数は 4.94 であった。年齢別構成では 0 歳児 17 例、1～4 歳児 39 例、5～9 歳児 3 例、10～14 歳 2 例、15～19 歳 1



例、20～29 歳 0 例、30～39 歳 1 例、40～49 歳 0 例、50～59 歳 2 例、60 歳以上 14 例であり、**前年同様に 0～4 歳児と 60 歳以上の年齢群での報告数が多く、それぞれ 49.4%、17.7%**であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 4.1%減の 843 例、定点あたり報告数は 1.76 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 0~4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 36.4%、50.7%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は全国の 9.4%であった。

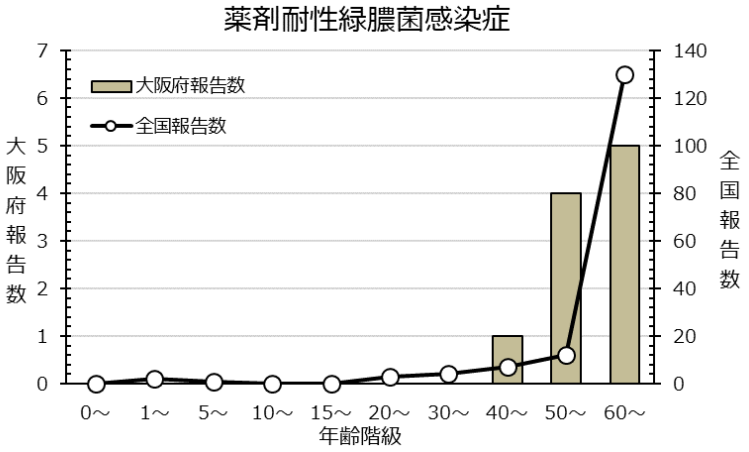
●薬剤耐性緑膿菌感染症

③北河内 5 例、①豊能 2 例、⑨大阪市西部 2 例、④中河内 1 例の 4 ブロックから 10 例報告があった。前年度 3 例から 3.3 倍増加した。定点あたり報告数は 0.63 であった。年齢別構成は、40～49 歳 1 例、50～59 歳 4 例、60 歳以上 5 例であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 38.3%増の 159 例の報告があり、定点あたり報告数は 0.33 と大阪府より少なかった。

全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 130 例と 81.8%を占めた。大阪府内の報告数は全国の 6.3%であった。

（文責：田丸）



2022 年 4 月 27 日　大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

（第２９９８号）（昭和25年９月７日第三種郵便物認可）　大阪府医ニュース　２０２２年（令和４年）４月２７日（毎週水曜日発行、但し第２週を除く）（６）

2021（令和３）年　感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市・寝屋川市・吹田市の密接な連携のもとに実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所（森ノ宮センター、天王寺センター）、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。2021年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

はじめに

2021年第52週時点の大阪府の小児科定点は197、インフルエンザ定点は300、眼科定点は52、基幹病院定点は16であり、前年とほぼ同様である。小児科・眼科定点疾患の１年間の患者報告数の総計は76,025人で前年より66.3％上昇した。インフルエンザを除く疾患別では感染性胃腸炎が１位であり、次いでＲＳウイルス感染症、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順である。第６位以下は、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、水痘、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、伝染性紅斑、急性出血性結膜炎であった。上位５疾患はそれぞれ全体の49.1％、21.1％、10.3％、6.4％、4.3％で、５疾患の合計が全体の91.3％を占めた。

感染性胃腸炎

第１位の感染性胃腸炎の患者報告数は37,353人で、前年に比し57.7％増加し、定点あたり報告数は3.66であった。年齢別では１歳で6,698人（17.9％）と最も多く、２歳が5,771人（15.4％）、３歳が4,345人（11.6％）、４歳が3,423人（9.2％）の順であり、１歳から４歳までで全体の54.2％を占めた。季節別では春期（３月～５月）に25.0％、夏期（６月～８月）に17.8％、秋期（９月～11月）に24.2％、冬期（12月～２月）に33.1％と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第49週（10.15）、第50週（10.86）、第51週（12.48）にピークがあった。検出されたウイルスは、ノロウイルスが46株、サポウイルスが15株、ロタウイルスが３株、アストロウイルスが６株、アデノウイルスが４株、その他が１株（ヒトパレコウイルス３）であった（図１）。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は５人であった。

ＲＳウイルス感染症

第２位のＲＳウイルス感染症は16,058人で、前年に比し13.2倍になり、定点あたり1.58であった。年齢別では１歳が5,037人（31.4％）で最も多く、２歳が3,980人（24.8％）、３歳が2,088人（13.0％）、６～12か月未満が2,029人（12.6％）、０～６か月未満が1,420人（8.8％）、４歳が968人（6.0％）の順であった。０から２歳までで全体の77.6％を占め、３～４歳が19.0％であった。新型コロナ感染症流行前の2019年までは０～２歳で毎年85％以上を占めており、2020年にＲＳウイルスに罹患しなかった児が2021年に初感染した結果と思われた。季節別では春期に46.8％、夏期に43.7％、秋期に4.1％、冬期に5.5％であり、春期秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第21週（5.05）に最大のピークがあり、その前後の第16週（3.86）、第28週（3.96）にもピークがあった。

手足口病

第３位の手足口病の患者報告数は7,851人で、前年に比し12.6倍に増加し、定点あたり報告数は0.77であった。年齢別では１歳で3,543人（45.1％）と最も多く、２歳が2,258人（28.8％）、３歳が716人（9.1％）、６～12か月未満で629人（8.0％）の順であり、１～３歳までで全体の83.0％を占めた。季節別では新型コロナウイルス感染症流行以前には夏期にピークを迎える夏型感染症であったが、春期に1.1％、夏期に2.6％、秋期に84.1％、冬期に12.2％と秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第41週（3.23）から３を超え、第44週（4.27）、第46週（4.12）にピークがあり、第47週（3.37）以降減少した。検出されたウイルスはコクサッキーＡ６が22株、コクサッキーＡ16が２株、その他が８株（ライノウイルス：６株、ヒトパレコウイルス１：１株、ＲＳウイルスＡ：１株）であった（図２）。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第４位のＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は4,855人で、前年に比し48.3％減少し、定点あたり0.48であった。年齢別では４歳が668人（13.8％）で最も多く、３歳が626人（12.9％）、５歳が566人（11.7％）、２歳が549人（11.3％）と続き、２～５歳までで全体の49.6％を占めた。季節別では春期に34.9％、夏期に21.9％、秋期に21.1％、冬期に22.2％であり、春期に多かった。週別定点あたり報告数では第９週（0.78）、第16週（0.78）、第19週（0.74）、第21週（0.77）、第22週（0.73）、第23週（0.74）で0.7を超えたが、１を超えることはなかった。

突発性発しん

第５位の突発性発しんは3,307人で、前年に比し13.2％減少し、定点あたり0.32であった。年齢別では１歳が1,757人（53.1％）で最も多く、６～12か月未満が1,001人（30.3％）、２歳が380人（11.5％）と続き、６か月～２歳までで全体の94.9％を占めた。季節別では春期に28.2％、夏期に25.8％、秋期に24.5％、冬期に21.6％であり、春期に若干多かった。週別定点あたり報告数では第５週（0.40）、第16週（0.49）、第21週（0.40）、第25週（0.44）、第27週（0.42）で0.4を超え、ピークはみられなかった。

インフルエンザ

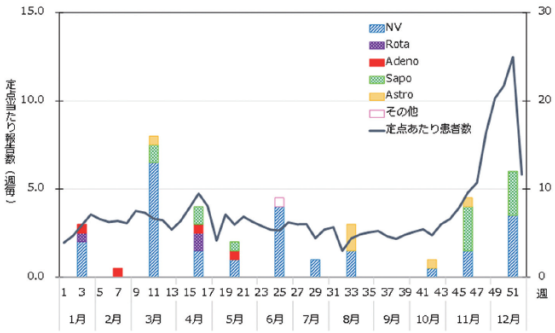
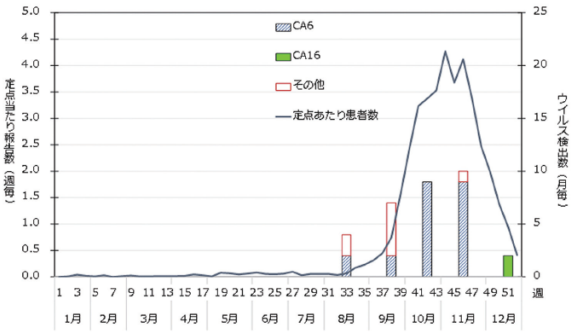
インフルエンザの患者報告数は94人で前年に比し99.9％減少し、定点あたり0.01であった。年齢別では１歳と２歳がそれぞれ14人（14.9％）と最も多く、他の年齢では10人を超えることはなかった。週別定点あたり報告数では第１週（0.03）が最大であり、それ以降は0.02以下であった。インフルエンザウイルスの検出はなかった。2021年は新型コロナウイス感染症流行に伴う社会隔離政策や様々な感染予防策により、インフルエンザを含め定点把握疾患の流行状況は過去とは大きく異なっている。様々な感染症に対する潜在的疾患感受性者が増えているため、今後の発生動向に注意を払う必要がある。

おわりに

1982年（昭和57年）に感染症発生動向調査事業を開始して39年が経過しました。この間、関係各位のご理解・ご支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2022年もご理解・ご支援の程よろしくお願いいたします。

報告：東野　博彦（河内医師会）

（図１）感染性腸炎ウイルス分離状況



（図２）手足口病ウイルス分離状況